

MICE誘致・開催における先進的テクノロジー 海外活用事例等調査事業

事業実施報告書

2019年3月22日

目次(最終報告書)

1. 調査概要	3	3. 国内MICE関係者に対するニーズ調査	56
1.1 背景と目的	4	3.1 MICE関係者マッピング	57
1.2 調査概要	12	3.2 ヒアリング対象企業	60
1.3 調査全体のまとめ(海外事例調査)	15	3.3 ヒアリング事項のまとめ	62
1.4 調査全体のまとめ(国内MICE関係者ヒアリング)	20	4. モデル分析	72
1.5 調査全体のまとめ(モデル分析)	26	4.1 モデル分析まとめ	73
1.6 調査全体のまとめ(全体)	31		
2. 先進的テクノロジー海外活用事例調査	33		
2.1 調査の方向性	34		
2.2 海外事例調査まとめ	36		
2.3 海外事例個別内容	45		

1. 調査概要

1.1 背景と目的

本事業の背景・目的

背景

- ✓ 国際会議等のMICEの誘致・開催は、ビジネスパーソンや研究者を日本に呼び込むことにより**以下の効果をもたらすもの**として、注目が集まっている
 - **開催地域を中心に大きな経済効果を創出**
 - **ビジネス機会やイノベーションの創出**
 - **国や都市の国際的競争力を強化**
- ✓ 世界のMICE市場規模は年々増加しており、日本の国際会議開催件数もそれに伴って年々増加している一方、**国際会議のシェアの観点からは、日本のシェアは伸び悩んでいる**状況である
- ✓ 国際会議の開催件数を地域別にみると、日本における国際会議開催件数は2017年において414件と、世界で7番手、アジア太平洋地域で1位となっている
- ✓ 上記の通り、現状において、2017年の日本の国際会議開催件数はアジア太平洋地域で1位を維持しているものの、2016年には中国が日本と並んで同率1位となるなど、**近年、他のアジア諸国から激しい追い上げを受け、MICE誘致における日本の相対的なプレゼンスが低下してきている**状況があることは否めない
- ✓ 近年では、MICEの上記のような機能/効果に着目し、アジア諸国をはじめとした**海外の有力国・都市がMICE誘致活動を強化しており、熾烈な都市間競争が繰り広げられている**状況である

目的

- ✓ 左記の背景を踏まえると、MICEの開催シェアを向上させることで、ビジネス機会やイノベーションの創出の場を日本にもたらし、国際競争力を強化することができると考えられる
- ✓ こうした状況下において、日本のMICE誘致について更なる国際競争力強化を図るため、MICE国際競争力強化委員会のもとに企画小委員会を設置・開催し、日本のMICE競争力強化へ向けた対策・取組の具体論について検討が行われている
- ✓ また、2018年7月に取りまとめられた「MICE国際競争力強化委員会 提言」において、官民をあげた具体的取組施策として、「様々なニーズに応え、満足度の高いコンテンツ及びプログラムの開発促進:我が国開催の魅力向上」が掲げられており、それを達成するための施策の一つとして、「**先進的テクノロジーを活用した「ビヨンドMICE」の普及・推進**」が提言されている
- ✓ 本業務は、同施策を実施するための前提として、海外事例等を調査するとともに、同調査結果をもとに国内MICE関係者等に対して普及活動を行うことで、**我が国において先進的テクノロジーを活用したMICE誘致・開催活動の普及・促進を図ることを目的**としている
- ✓ これらの戦略に基づく具体的な施策に**オールジャパン体制で取り組むことにより、我が国における国際的MICE開催の一層の発展につながる**ことを期待されている

(参考)MICEの定義・意義

観光庁によるMICEの定義

M Meeting:
主に企業がグループ企業やパートナー企業などを集めて行う企業会議、大会、研修会等の会合(=コーポレートミーティング)を指す

I Incentive:
企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する旅行のことで、企業報奨・研修旅行と呼ばれる

C Convention:
いわゆる国際会議であり、学会や産業団体、さらには政府等が開催する大規模な会議を一般的に指す

E Exhibition/Event:
国際見本市、展示会、博覧会といったエキシビジョンや、スポーツ・文化イベントなど大小さまざまなものが含まれる広範な概念である

出所:観光庁HP「MICEの誘致・開催の推進」を基に作成

MICEの意義

➤ 国際会議等のMICEの誘致・開催は、ビジネスパーソンや研究者を日本に呼び込むことにより以下の効果をもたらすものとして、注目が集まっている

■ 地域への経済効果 (H28年)

- ✓ 経済波及効果:1兆590億円
- ✓ 新たに生じた雇用創出効果:96,000人分
- ✓ 税収効果:820億円
- ✓ 外国人参加者1人あたり消費額:33.7万円(航空賃込)
(一般観光による訪日外国人1人あたり消費額:15.6万円)

■ ビジネス・イノベーションの機会の創造

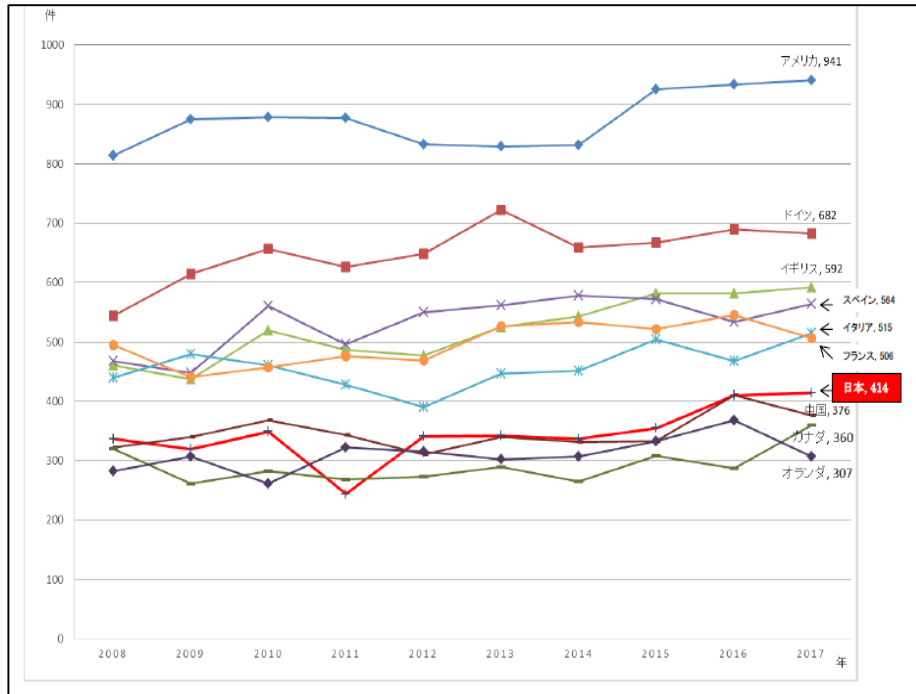
- ✓ MICE開催は、ビジネスや研究分野の海外参加者と我が国参加者の人的ネットワーク形成や知識・情報の共有に大きな効果
- ✓ これらを通じて、新たなビジネス機会を生み出し、科学技術の発展・イノベーションの創出に大きく資する

■ 国・都市の競争力強化

- ✓ MICEを通じた人や情報の交流・流通、ネットワーク構築の容易さなどは、都市の競争力・ブランド力向上に寄与する

(参考)全世界における国際会議の開催状況

全世界の国際会議開催件数 (2008年～2017年)



出典: JNTO ICCA による2017年の国際会議開催統計の発表

国際会議開催主要地域 (2017年)

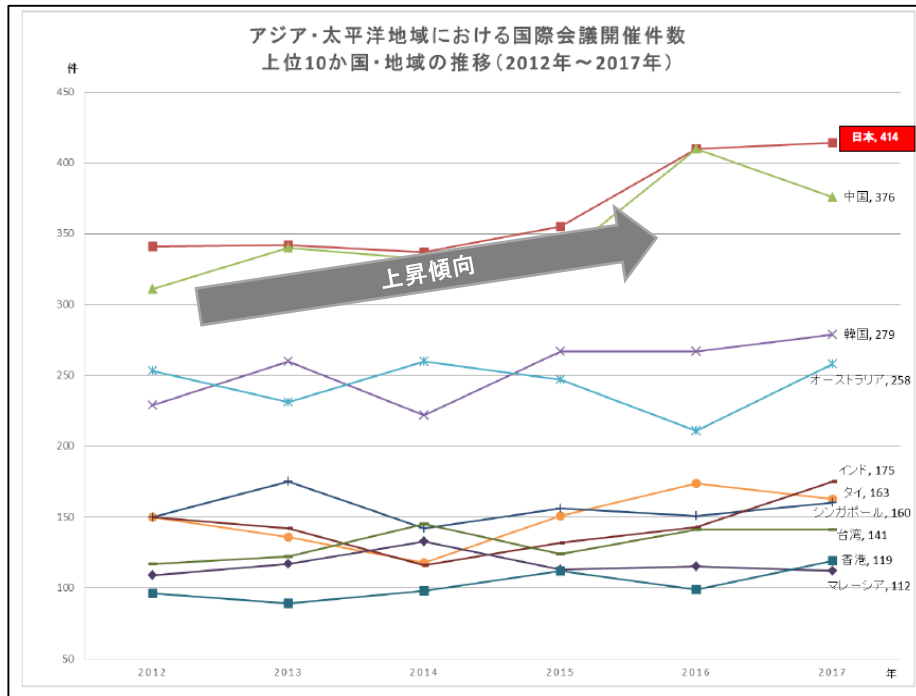
順位	都市	地域	件数
1	バルセロナ	欧州	195
2	パリ	欧州	190
3	ウィーン	欧州	190
4	ベルリン	欧州	185
5	ロンドン	欧州	177
6	シンガポール	アジア・オセアニア	160
7	マドリッド	欧州	153
8	ブラハ	欧州	151
9	リスボン	欧州	149
10	ソウル	アジア・オセアニア	142
11	ブエノスアイレス	南米	131
12	ブダペスト	欧州	128
13	香港	アジア・オセアニア	119
14	ダブリン	欧州	117
15	コペンハーゲン	欧州	115
16	アムステルダム	欧州	112
17	バンコク	アジア・オセアニア	110
18	東京	アジア・オセアニア	101
19	ストックホルム	欧州	97
20	モントリオール	北米	96
21	ローマ	欧州	96
22	ブリュッセル	欧州	90
23	ワルシャワ	欧州	89
24	ヘルシンキ	欧州	87
25	北京	アジア・オセアニア	81
26	アテネ	欧州	76
27	シドニー	アジア・オセアニア	76
28	台北	アジア・オセアニア	76
29	リマ	南米	74
30	オスロ	欧州	73
...
50	京都	アジア・オセアニア	46

出典: ICCA統計資料を基に作成

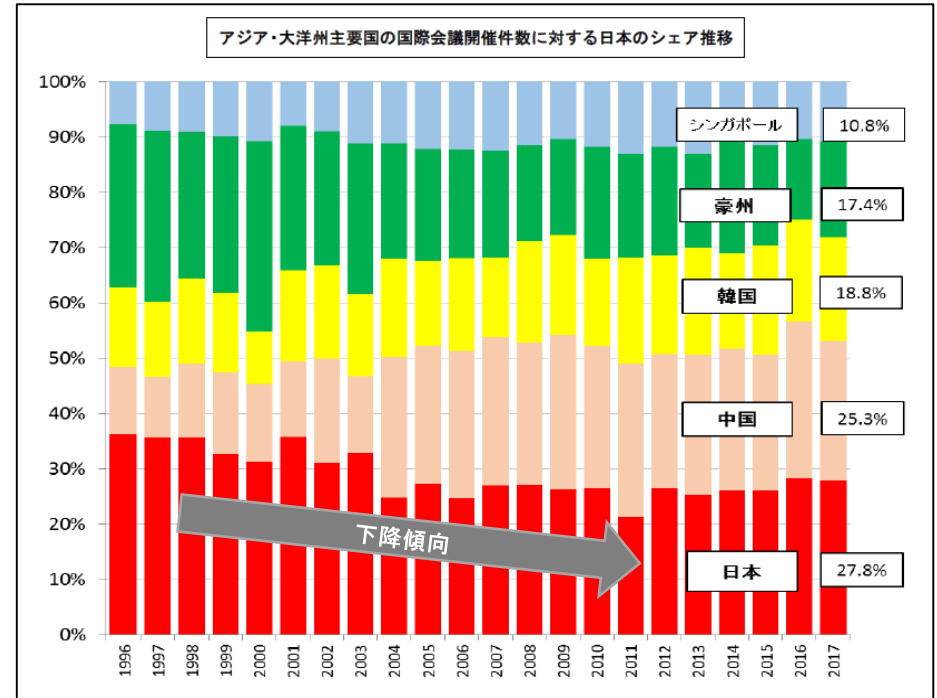
世界的に見ると、日本は2017年において国際会議の開催件数が414件で世界7位となっており、都市別にみると、東京は世界第18位、京都が50位という状況である。国際的な都市間競争が激化しており、**都市毎の競争力の強化を高めるとともに、日本全体での取組みも併せて推進していく必要がある**

(参考)アジア・太平洋地域における国際会議の開催状況

アジア・大平洋主要国の国際会議開催件数及びシェア(~2017年)



出典: JNTO ICCA による2017年
国際会議開催統計の発表



出典: JNTO ICCA による2017年
国際会議開催統計の発表

世界的なMICE市場は伸長に応じて、日本における国際会議開催件数も伸長している。一方、**シェアの面からは、他のアジア太平洋主要国の追従を許している**状況であり、特に、**ターゲットとすべきアジア市場におけるMICE市場の獲得が急務**である

政府は2030年までに、訪日外国人旅行者消費額の目標15兆円のうち、MICE全体の訪日外国人消費額で8,000億円を創出する目標を示している

訪日外国人消費額の目標

新たな目標について(案)

安倍内閣3年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、大胆な「改革」を断行

- 訪日外国人旅行者数は、2倍増の約2,000万人に(2015年)
- 訪日外国人旅行消費額は、3倍増の約3.5兆円に(2015年)

新たな目標へ挑戦!

訪日外国人旅行者	2020年:4,000万人	2030年:6,000万人
訪日外国人旅行消費額	2020年:8兆円	2030年:15兆円
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年:7,000万泊	2030年:1億3,000万泊
外国人リピーター数	2020年:2,400万人	2030年:3,600万人
日本人国内旅行消費額	2020年:21兆円	2030年:22兆円

観光立国の実現のための新たな目標

政府の示す「訪日外国人旅行者消費額」の目標は、2020年までに8兆円、2030年までに15兆円

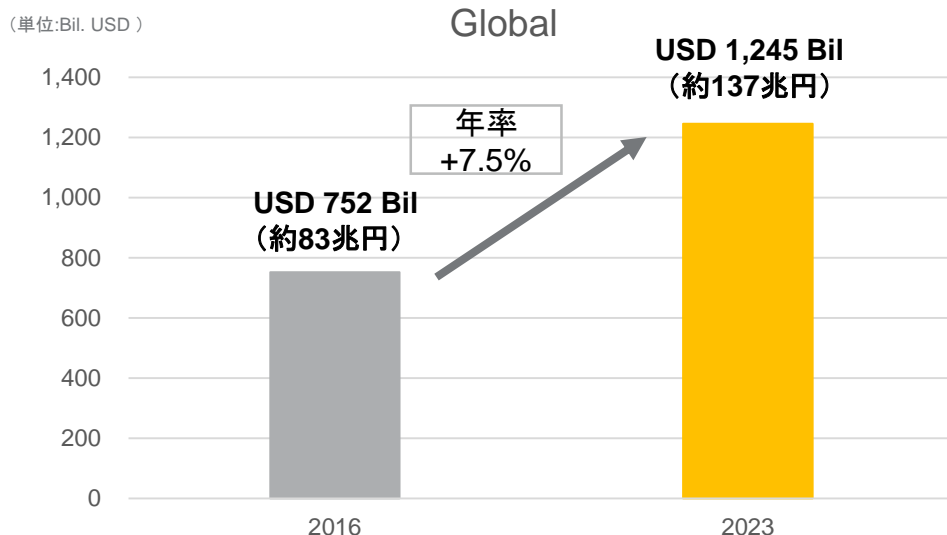
MICE全体目標

15兆円うち、「MICE全体の訪日外国人消費額」は、2030年に8,000億円。また2020年の目標は、2030年の途中経過を評価する指標として3,000億円を目指している

MICE産業はグローバルにおいて今後成長が期待されており、日本国内においても経済波及効果が年間1兆円を超える社会的経済的に影響力の高い産業である

MICEの市場規模と経済波及効果

グローバル全体でのMICE市場規模

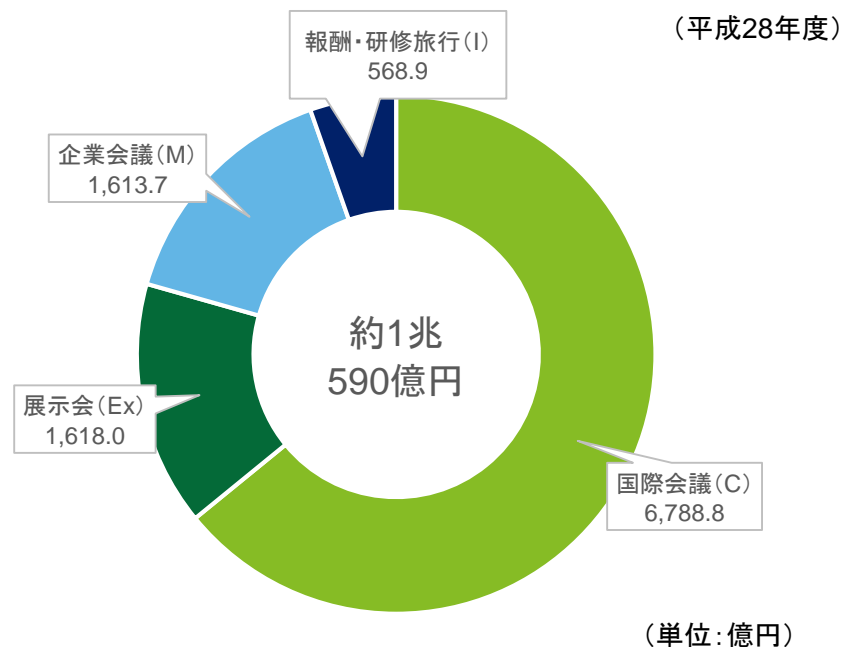


1ドル=110円で換算

出典: Allied Market Research 『MICE Industry by Event Type』を基に作成

2016年のグローバル全体でのMICE市場規模は約83兆円であった。毎年7.5%の成長が推測されており、2023年には約137兆円に達すると予測されている

日本での国際MICE全体による経済波及効果

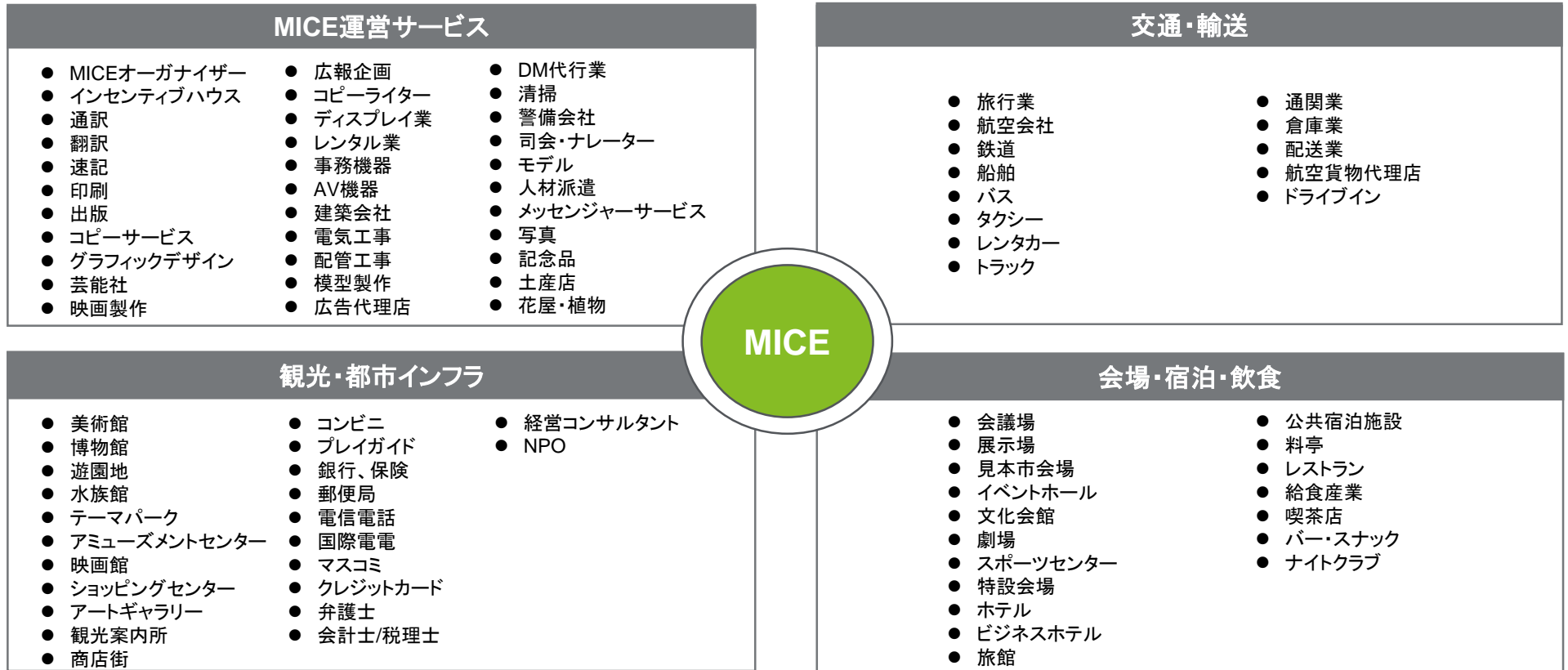


出典: 観光庁『平成29年度「MICEの経済波及効果算出等事業」報告書』を基に作成

観光庁により算出された「日本国内で開催された国際MICE全体による経済波及効果」は、総消費額が約5,384億円、経済波及効果が約1兆590億円と推計された

MICE関連産業の裾野は広いため、MICE産業のICT化により、テクノロジー関連企業が携わる機会が増えることが想定される

MICE関連プレーヤー



出典:『イベント&コンベンション概論』(JHRS)を基に作成

テクノロジー関連企業による下支え

1.2 調査概要

MICE施設における先進的テクノロジーの活用を「誘致活動時」「開催時」に分類し、さらに「開催時」については、「開催前」「開催中」「開催後」のシーン別に分けて調査業務を実施

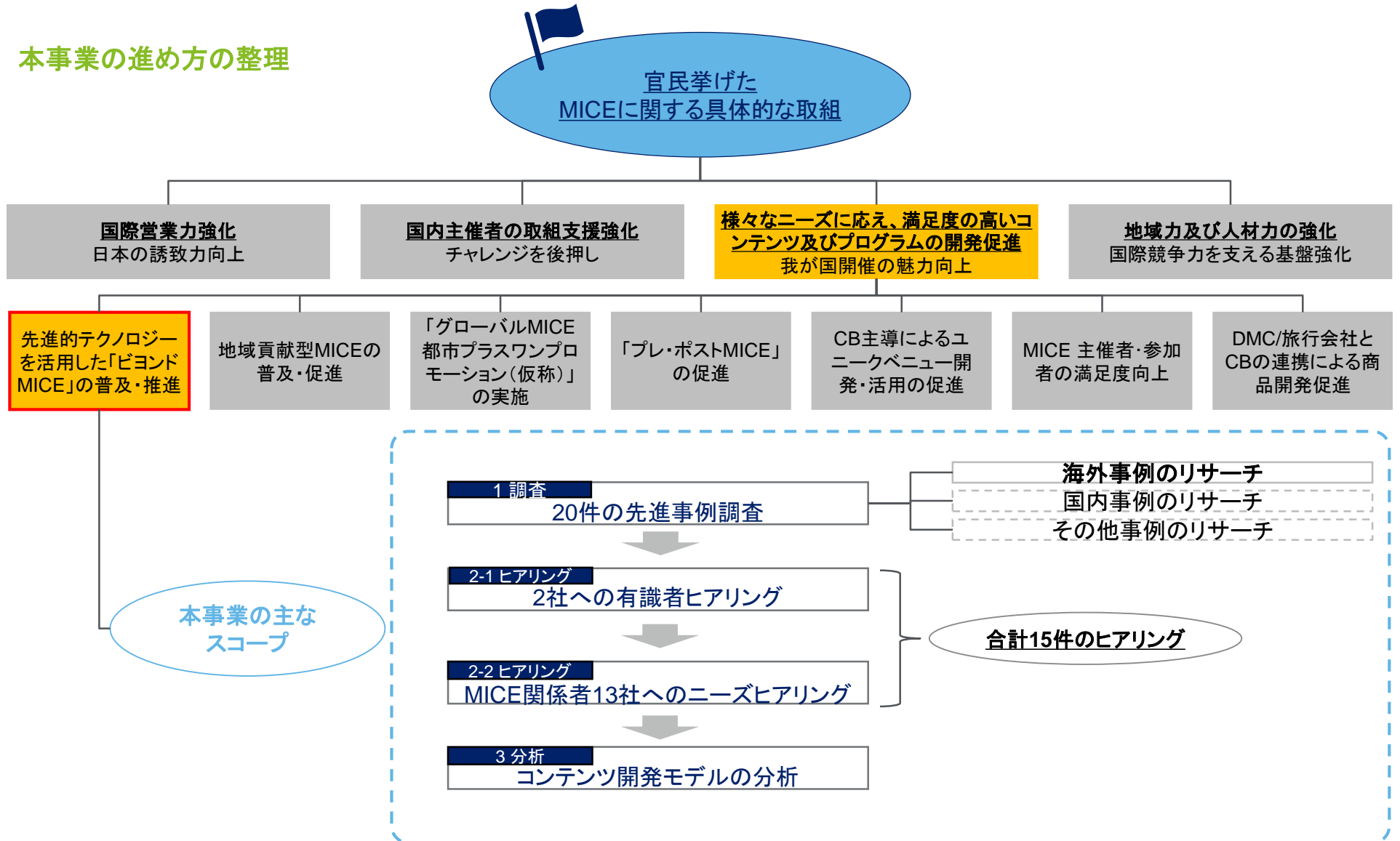
MICEにおけるICTサービスと要素テクノロジーの関係

時期		ICTサービス活用シーン(例)
誘致活動		VRを活用したバーチャル施設案内、ホームページの多言語化、MICE施設予約システム 等
開催時	開催前	顔認証による入場管理、アプリ等の活用による会場案内、イベント参加プロセスの簡素化 等
	開催中	AIによる通訳機能、VR/AR等の活用による製品プロモーション、モバイル決済システム 等
	開催後	イベント後のデータ分析、AIを活用した来場客の行動予測に基づく混雑回避 等



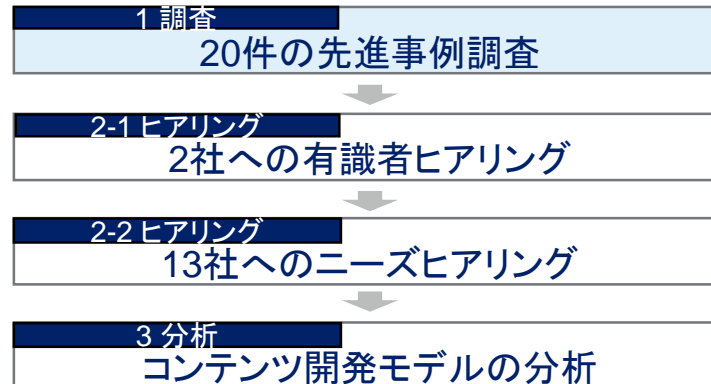
海外先進事例を幅広く抽出し、国内MICE事業者へのヒアリングを通じて、日本のMICE強化に資するモデルを構築する

本事業の進め方の整理



※MICE国際競争力強化委員会『我が国のMICE国際競争力の強化に向けて(提言)』と本事業説明書に基づき、業務スコープを整理

1.3 調査全体のまとめ(海外事例調査)



海外事例調査を以下のとおり実施した

1. 調査の概要

- 海外のMICE誘致・開催における先進都市において、先進的テクノロジーを活用した好事例について、20件の調査を実施した

2. 調査・分析の観点

- 先進的テクノロジーを活用した海外の好事例について、以下の観点を基に調査・分析を実施した
 - テクノロジーを「誘致活動時」「開催前」「開催中」「開催後」の活用シーンに分類し、調査を実施した
 - 調査都市の地域やMeeting/Incentive/Convention/Exhibition等、調査対象とする内容に極度の偏向がないよう留意した

3. 調査の手法

- デスクトップ調査(webリサーチ、文献調査)及びヒアリング調査をもとに調査を行った

4. 調査・分析の対象

- 海外のMICEイベントで活用された先進的テクノロジー(海外事例)を調査・分析対象とした
<参考情報>
- 国内のMICEイベントで活用された先進的テクノロジー(国内事例)を調査・分析対象とした
- MICEイベント以外で活用された先進的テクノロジーで、MICEイベントに活用できる可能性のあるテクノロジー(その他の事例)を調査・分析対象とした

5. その他

- 網羅性を担保するため、海外事例30件のロングリストを作成し、その中から海外レポート・ヒアリングを通じて20件の海外好事例を抽出した
- 海外のMICEテクノロジー事例として抽出された時点で、日本におけるMICE施設に導入するテクノロジーとして差別化要素になりえない可能性があるため、「国内事例」やMICE施設に応用可能性のある「その他の事例」を参考情報として合わせて30件抽出した

海外事例調査の結果および考察は以下のとおり

調査結果

- 調査結果で抽出した20件の事例から、多様なサービスが活用されていることが分かった。一方、日本においては、日本のMICE産業で活用されている事例もあるものの、「普及水準」に至っていないICTサービスは少ないと考えられる
- 以下MICE産業のテクノロジートレンドに沿った形で海外MICE先進国ではICTサービスが導入・普及している
 - オンライン登録(例: チケット購入、入場管理)
1990年代前半~2000年代初頭にかけて米国を中心にインターネットバブルが生じ、MICE産業においてもオンラインでのチケットングをはじめ様々な手続きがインターネット上で行えるようになる等、MICE産業にもテクノロジー化の潮流が起こる
 - イベントアプリ(例: スマホアプリによるワンストップサービス)
1990年代末~2000年代にかけて、携帯電話の高度化が進む。特に、iPhone等のスマホの爆発的普及を背景に、イベントアプリの普及の潮流が起こり、MICE産業における普及も進む
 - 高速ネットワーク(例: 無料高速ネットワーク)
スマートフォン等の普及に伴う回線容量の不足により、高速ネットワーク回線が普及。MICE施設においてもスマホの利用者等の増加に伴い、高速ネットワーク環境の普及が進む
 - コミュニケーションツール(例: スマホアプリによるワンストップサービス)
個人・企業レベルで多くのSNSサービスが普及。MICE産業においても、ROIの概念が重視される中、参加者の成果に繋がる(例: 商談成立)ための、MICE施設での直接的なコミュニケーションを促進するツールが発展
- 昨今では、VR/ARやセンシング機器を活用したICTサービスが活用されている

考察

- 今後、MICE産業で活用が見込まれるサービスは、他産業でも活用されつつある、AI(人工知能)と各ICTサービスを掛け合わせたサービスと考えられる。特に、ビックデータとAIを活用した個々人の嗜好に合ったサービスの普及が見込まれる
- スマホアプリを活用したコミュニケーションツールを例にとると、海外ではSNSサービスとの連携やイベント当事者間でのメッセージ交換、ライトパーソンの位置情報特定等の機能を装備したスマホアプリによるワンストップサービスが普及している
今後、ビックデータと高度化したAIにより、MICEイベントに参加する価値を最大化するための機能が普及すると考えられる
- 昨今主流のVR/ARによる自社製品等の紹介に加え、今後は、ホログラムを活用したMICE施設内の案内やプレゼンテーション等も増えてくると考えられる
- センシング機器についても、昨今主流のRFIDタグを活用した入場管理や代金決済のみならず、五感を刺激するサービスが高度化し、MICE施設内における個々人の興味・関心・行動に合わせたサービスの発展が今後見込まれる

MICE産業におけるテクノロジートレンドや今後のビックデータとAIの発展等を踏まえ、海外好事例20件を以下の通り抽出した

海外事例調査まとめ (1/2)

※各事例の詳細内容は、『2.3 海外事例個別内容』(P.44～)参照

#	時期	サービス類型	カテゴリー	MICE区分 ^{*1}
1	誘致活動時	誘致から開催までの情報支援	主催者支援ポータルサイト	MICE全般
2		施設視察	デジタルプラットフォームを活用した施設視察	MICE全般
3		施設視察	テクノロジーを活用した遠隔でのバーチャル施設視察	MICE全般
4		施設予約	MICE施設予約システム	Meeting
5	開催前	オンライン登録の簡素化	イベント参加登録プロセスの簡素化	Event
6		入場管理・セキュリティ	顔認証による入場管理	Event
7	開催中	アプリによるワンストップサービス	アプリの活用によるスケジュール管理等の各種機能の提供	Exhibition
8		アプリによるワンストップサービス	現地で使えるスマホの配布	Incentive
9		通信環境	通信環境の整備 (高速Wi-Fi等)	MICE全般
10		施設内環境の管理	ウェアラブルの活用による最適な環境設定 (空調、照明等)	Event

*1: 海外事例調査で抽出した事例が、どのMICE区分で利用されたものかを記載

MICE産業におけるテクノロジートレンドや今後のビックデータとAIの発展等を踏まえ、海外好事例20件を以下の通り抽出した

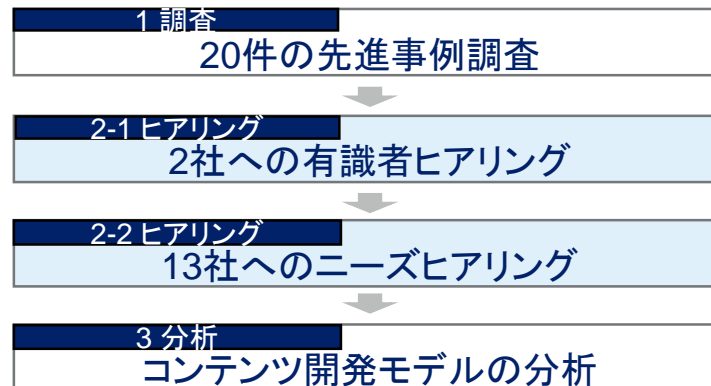
海外事例調査まとめ (2/2)

※各事例の詳細内容は、『2.3 海外事例個別内容』(P.44～)参照

#	時期	サービス類型	カテゴリー	MICE区分 ^{*1}
11	開始中	施設案内	デジタルサイネージの活用による会場案内等	Exhibition
12		キャッシュレス対応	新たなモバイル決済システム	Event
13		通信環境	複数のオーディオチャンネルを放送できる通信技術	Convention
14		導線分析	データ分析による施設内配置/スケジュールリングの最適化	Convention
15		製品プロモーション	VR/ARによる製品プロモーションの効率化	Exhibition
16		製品プロモーション	RFIDの活用によるスムーズな情報取得	Exhibition
17		演出効果	ホログラムの活用によるCEO等による演出	Exhibition
18		多言語対応	AIによる通訳機能	Convention
19		開催後	導線分析	AIを活用した来場客の行動予測に基づく混雑回避
20	イベント効果測定		イベント後のデータ分析	Exhibition

*1: 海外事例調査で抽出した事例が、どのMICE区分で利用されたものかを記載

1.4 調査全体のまとめ(国内MICE関係者ヒアリング)



国内MICE関係者ヒアリングを以下のとおり実施した

1. 調査の概要

- 国内のMICE誘致・開催に関わる国内MICE主催者、および国内MICE事業者等に対してニーズ調査を行った。ニーズ調査は、海外事例を踏まえ、我が国として更なる競争力を有するため、先進的テクノロジーを駆使したMICEコンテンツのニーズ等についてヒアリングを実施した

2. 調査・分析の観点

- 国内MICE関係者ヒアリングについて、以下の観点を基に調査・分析を実施した
 - ヒアリング先の選定に際しては、ヒアリング対象となる国内MICE主催者・誘致主幹団体、及び事業者等、調査対象に極度の偏向がないよう留意した
 - 実際のヒアリングに際しては、カスタマージャーニーの手法を導入し、一般的な誘致～開催後までの動きを視覚化した上でヒアリングを実施した

3. 調査の手法

- 国内MICE関係者へのニーズヒアリングを実施した

4. 調査・分析の対象

- 15件のニーズヒアリングを実施した

5. その他

- ヒアリング対象の国内MICE関係者について、「国内MICE主催者」「国内MICE事業者」「政府機関等」に分類し、網羅的にヒアリングを実施した
- ヒアリング先：合計15社
 - 国内MICE主催者・誘致主幹団体（国内MICE主催者）：リードエグジジションジャパン株式会社、デロイトトーマツ、株式会社KADOKAWA・DWANGO、一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会(JESA)（計：4社）
 - 国内MICE事業者：株式会社レイ、株式会社JTB、株式会社コングレ、サクラインターナショナル株式会社、イベントレジスト株式会社、チームラボ株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社バカン、株式会社横浜国際平和会議場、グランドハイアット東京（計：10社）
 - 政府機関、CB（政府機関等）：公益財団法人東京観光財団（計：1社）

調査内容(ヒアリング先)

2社への有識者ヒアリング調査対象

カテゴリ	MICE区分	会社	選定数
国内MICE 事業者	イベント(施工)会社/PCO	A社	1社
	旅行会社/DMC	B社	1社

13社へのニーズヒアリング調査対象

カテゴリ	MICE区分	会社	選定数
国内MICE 主催者	国内MICE主催者	C社	4社
		D社	
		E社	
	国内誘致主幹団体	F社	
国内MICE 事業者	イベント(施行)会社/PCO	G社	2社
		H社	
	MICE関連テクノロジー会社	I社	4社
		J社	
		K社	
		L社	
	MICE施設	M社	2社
		N社	
政府機関等	コンベンションビューロー	O社	1社

国内MICE関係者ヒアリングの結果および考察は以下のとおり

調査結果

- 「国内MICE主催者」「国内MICE事業者」「政府機関等」の合計15社に対してニーズヒアリングを実施した結果、特に以下3つの観点のニーズや課題認識が多かった

➤ コミュニケーション

MICEの大きな特徴となるF2Fコミュニケーションの効率的かつ効果的な実施により、参加した成果を最大化したいというニーズは高い

➤ 労働生産性

主催者及びMICE施設担当者の業務は、煩雑かつ多岐に渡るため、作業を効率化したいというニーズは高い

➤ ネットワークインフラ

海外MICE施設では、広く高速Wi-Fiの常設環境が整っているため、日本のMICE施設にも広く整備してほしいというニーズは高い

考察

- 左記の3つの観点に関連するICTサービスの必要性和、これまで日本で普及しなかった理由・課題および解決方法案は以下の通りと考える

➤ コミュニケーション

- 観光業へ普及しつつある、パーソナライズドマーケティング/コミュニケーション活性化を促す先進的テクノロジーの導入・整備の推進が必要である
- 日本では、コミュニケーションツールを開発するベンダーが少ないことから、競争原理が働かず、優れた製品が不足し製品価格も高額になる傾向があることから、主催者が導入できていないことが主な要因の一つと考えられる
- 解決の方法として、日本の高い技術力を有するベンチャー企業等がMICE産業へ参入することで、市場競争力を高めることが重要と考える

➤ 労働生産性

- ヒトとAIが組み込まれたテクノロジーとの協働により、労働集約型産業からの脱却を推進することが必要である
- 煩雑な事務作業を効率化する方法やロボットやテクノロジーを活用したサービス内容を知る環境が少ないことが主な要因の一つと考えられる
- 解決の方策として、国内MICE産業でニーズの高いICTサービスの内容を積極的にテクノロジー関連企業等にプロモーションすることや、MICE産業における既存関係者および高い技術力を有するテクノロジー関連企業等が積極的に協議・交流し、互いのニーズを確認できる場があることが重要と考える

➤ ネットワークインフラ

- 高速Wi-Fi環境のみならず、超高速かつ集客施設の通信遅延ストレスや、高速通信が必要なテクノロジーを活用したサービスの使いやすい環境整備の観点から、次世代ネットワークインフラ(5Gや超高速Wi-Fi等)整備の推進が必要である
- コスト面の問題もあるものの、国内MICE施設の高稼働状況が続いており、MICE施設側の高速ネットワーク環境導入インセンティブが働いていないことが主な要因の一つと考えられる
- 解決の方策として、MICE施設と主催者等が積極的に協議・交流し、互いのニーズを確認する場がある事が重要と考える

MICE関係者へのニーズヒアリングを踏まえ、特に、「コミュニケーション」、「労働生産性」、「ネットワークインフラ」という3つの観点のニーズが多く整理された

※「Reach」領域の定義は、P.28参照

各当事者のニーズに基づくICTサービスの整理(Reach領域)

3つの強化ポイント

コミュニケーション 労働生産性 ネットワークインフラ

主催者	MICE施設	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ■ VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール(誘致時) 労働生産性 ■ 会場レイアウト確認ツール(開催前) 労働生産性 ■ 通訳システム(開催中) コミュニケーション 労働生産性 ■ 位置情報確認ツール(開催中) コミュニケーション 労働生産性 ■ 無料高速Wi-Fi(開催中) ネットワークインフラ ■ 資料等閲覧アプリ(開催中) 労働生産性 ■ 当事者同士のコミュニケーションツール(開催中) コミュニケーション ■ アンケート集計ツール(開催後) 労働生産性 ■ マーケティング用データ分析ツール(開催後) ■ エコロジカルなテクノロジーツール(開催前～開催中) ■ SNS等を活用したマーケティングツール(誘致時) コミュニケーション ■ 国内外のイベント検索ツール(開催前) 労働生産性 ■ 入場バッチ発行プリンター(開催前) 労働生産性 ■ 通信セキュリティサービス(開催中) ネットワークインフラ ■ デジタルサイネージ(開催中) コミュニケーション 労働生産性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール(誘致時) 労働生産性 ■ デジタルサイネージ(開催前) コミュニケーション 労働生産性 ■ 国内外のイベント検索ツール(開催前) 労働生産性 ■ 通信セキュリティサービス(開催中) ネットワークインフラ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタルサイネージ(開催前) コミュニケーション ■ 通訳システム(開催中) コミュニケーション ■ 位置情報確認ツール(開催中) コミュニケーション ■ 無料高速Wi-Fi(開催中) ネットワークインフラ ■ 資料等閲覧アプリ(開催中) ■ 当事者同士のコミュニケーションツール(開催中) コミュニケーション ■ ワンストップサービス提供イベントアプリ(開催前～開催後) コミュニケーション ■ 事前情報収集ツール(開催前～開催後) ■ 外国人向け交通(案内)サービス(開催前～開催後) ■ 通信セキュリティサービス(開催中) ネットワークインフラ ■ デジタルサイネージ(開催中) コミュニケーション ■ セミナー配信システム(開催後) ■ 地域連携アプリ(開催前～開催後)

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.71～)参照

MICE関係者へのニーズヒアリングを踏まえ、特に、「労働生産性」を向上させるためのニーズが多く整理された

※「Beyond」領域の定義は、P.28参照

各当事者のニーズに基づくICTサービスの整理 (Beyond 領域)

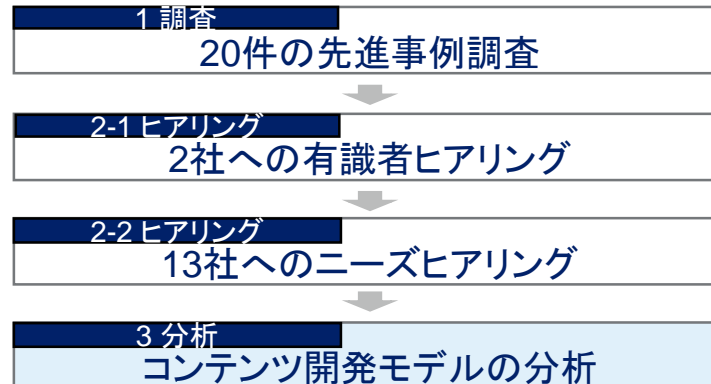
3つの強化ポイント

コミュニケーション 労働生産性 ネットワークインフラ

主催者	MICE施設	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設予約システム(誘致時) 労働生産性 ■ マッチメイキングツール(誘致時) コミュニケーション ■ 出席者管理システム(開催前) 労働生産性 ■ ビザ申請管理システム(開催前) 労働生産性 ■ 出展者検索システム(開催前) コミュニケーション 労働生産性 ■ 高度な設営支援サービス(開催前) 労働生産性 ■ 使いやすいデータベース(誘致活動時) 労働生産性 ■ 演出イメージ情報サイト(開催前) 労働生産性 ■ 翻訳システム(開催前) 労働生産性 ■ AI契約書チェックシステム(開催前) 労働生産性 ■ 高度リアルタイム資料共有システム(開催前) コミュニケーション 労働生産性 ■ レンタル機器プラットフォーム(開催前) 労働生産性 ■ バリアフリーサービス(開催中) ■ 高解像度映像中継ネットワークサービス(開催中) コミュニケーション ネットワークインフラ ■ 写真共有アプリ(開催中) コミュニケーション 労働生産性 ■ 来場者数管理システム(開催後) 労働生産性 ■ e-learning等を活用したMICEナレッジマネジメントツール(誘致時～開催時) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設予約管理システム(開催前) 労働生産性 ■ MICE施設予約システム(誘致活動時) 労働生産性 ■ AI契約書チェックシステム(開催前) 労働生産性 ■ 高度リアルタイム資料共有システム(開催前) コミュニケーション 労働生産性 ■ ウェアラブル端末等による環境最適化ツール(開催中) 労働生産性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 手荷物保管サービス(開催前) ■ AI技術等を活用したトイレの空き状況確認ツール(開催中) ■ 駐車場管理ツール(開催後) ■ オンライン食事関連サービス(開催中) ■ 名刺交換ツール(開催中) コミュニケーション ■ ウェアラブル端末等による環境最適化ツール(開催中) ■ 写真共有アプリ(開催中) コミュニケーション ■ 観光回遊性向上ツール(開催後)

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.71～)参照

1.5 調査全体のまとめ(モデル分析)



モデル分析を以下のとおり実施した

1. 調査の概要

- 「海外事例調査」及び「国内MICE関係者ヒアリング」の調査結果に基づき、MICE誘致および開催のプロセス(誘致、開催前、開催中、開催後)において、我が国が優位性を発揮するコンテンツ等のモデルについて分析を行った

2. 調査・分析の観点

- モデル分析実施に際して、我が国の強みと弱みをそれぞれ分野(M,I,C,E)及び場面別に体系的に示したうえで調査・分析を実施した

3. 調査の手法

- マーケティング手法で用いられることの多いカスタマージャーニーを活用したM,I,C,Eの場面別のモデル分析を実施した

4. 調査・分析の対象

- 海外事例調査結果、国内MICE関係者へのヒアリング結果を踏まえて調査・分析を実施した

モデル分析の結果および考察は以下のとおり

調査結果

- 海外事例調査及び国内MICE関係者ニーズ調査より、時系列ごとに当事者ニーズが高いICTサービスの整理を行った
- その上で、MICE関係者ヒアリングにおいて把握されたニーズを、以下の2つに分類・整理し、日本の強みと弱みを体系的に分析した
 - **海外で活用されることが多いサービスを「Reach」領域**のサービスと定義し、日本が海外MICE先進国に比べて普及が進んでいない領域であるため、**日本の弱みであり、早期に追いつく必要がある**と判断した
 - **海外で活用実績がない又は少ないサービスを「Beyond」領域**のサービスと定義し、海外MICE先進国でも普及が進んでいない領域であるため、**日本が世界に先駆けて導入できる可能性の高い領域**であり、**日本が強みを有する**と判断した
- 「誘致活動時」および「開催時(開催前)」については、「Beyond領域」に関するICTサービスが多く、「開催時(開催中)」および「開催時(開催後)」については、「Reach領域」に関するICTサービスが多い

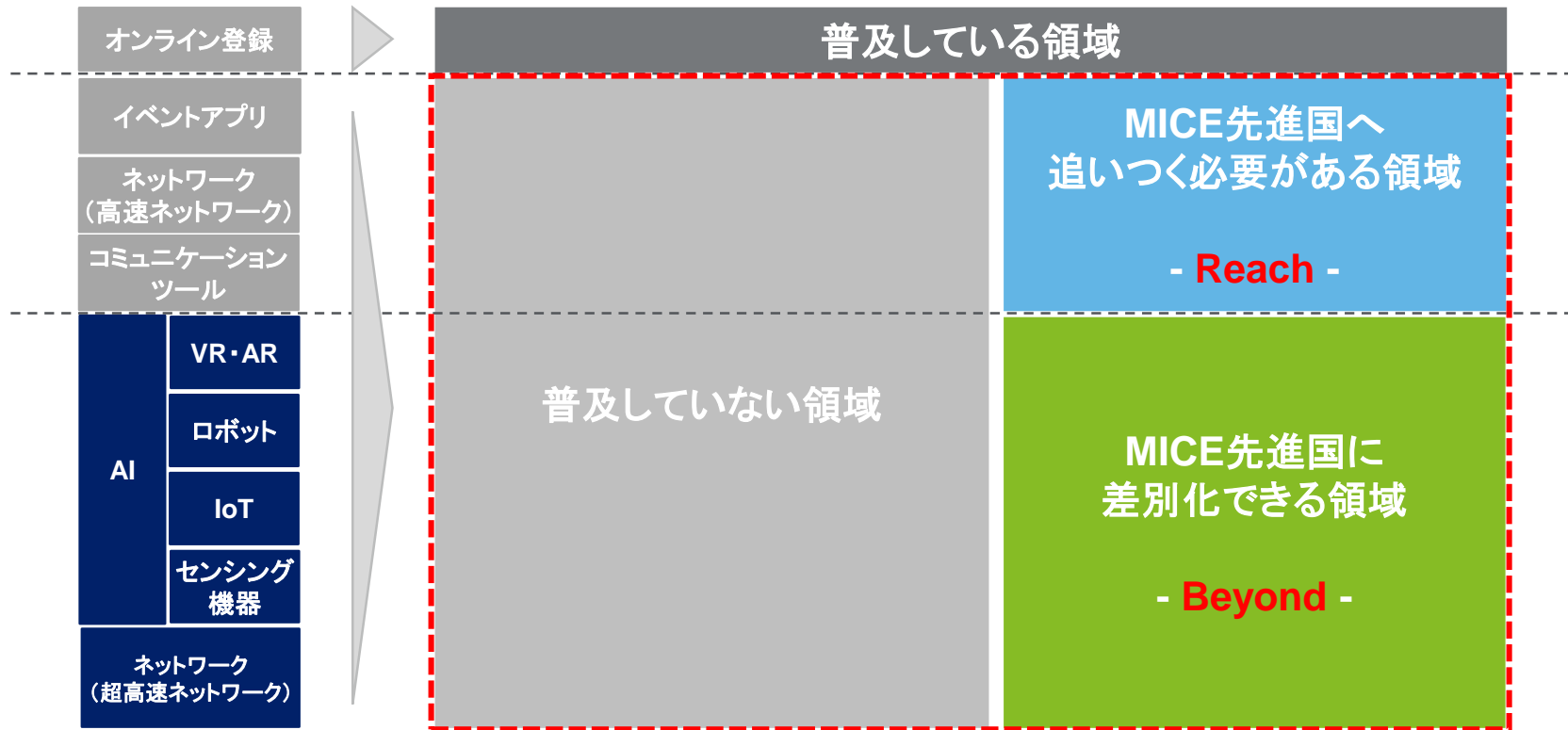
考察

- 「Reach」領域となる、日本の弱みとなっている海外MICE先進国で活用実績が多いICTサービスは、**日本MICEでも内資・外資を問わず有効なサービスを採用・整備し、MICE先進国に並ぶ環境整備が重要**と考える
Wi-Fi環境を例にとると、海外のMICE施設に比べて、無料高速Wi-Fiを利用できる国内の主要MICE施設は限定的であり、“MICEの国際競争力を持たせるための必須環境”である、MICE施設常設の高速Wi-Fiが整備できていない状況である
無料高速Wi-Fiの整備は既に海外ではスタンダードになっており、日本のMICE施設で整備できていないことは、主催者の会場選定時に致命的な弱点となる可能性が高い
よって、日本のMICE国際競争力を損なう要因の一つになることを、MICE関係者、特にMICE施設は改めて認識する必要があると考える
- 「Beyond」領域となる、海外MICEで活用実績がない又は少ないICTサービスは、**日本の他産業で既に活用実績がある内資のICTサービスも多い事から、日本MICE産業へ転用または応用することで、日本の強みになり得る**と考える

日本のMICE産業におけるテクノロジーの普及状況と課題

日本のMICE産業におけるテクノロジーの普及状況

凡例: 今後整備が必要な領域



以降、MICE先進国へ追いつく必要がある領域を Reach、MICE先進国に差別化できる領域を Beyond と表現する

- 日本では、オンライン登録は普及しているが、その他の多くのテクノロジーが普及していない状況
- 今後、国際会議・イベントの誘致競争に勝ち抜くためには、MICE先進国に追いつき、更にトレンドを見据えた差別化できるテクノロジーを導入する必要がある

海外事例調査及び国内MICE関係者ニーズ調査より、時系列ごとに当事者ニーズが高いICTサービスを、追いつく(Reach)・追い越す(Beyond)の視点で整理を行った

凡例

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61~)参照

Reach ...海外で活用されることが多いサービス(日本の弱み) ■...各プレーヤー主なニーズ
 Beyond ...海外での活用実績がない又は少ないサービス(日本の強みとなり得る) ⇒...解決するためのICTサービス

モデル分析

いつどこで	誘致活動		開催前				開催時		開催後		
	開催決定	開催地(施設)決定	日本入国	ホテル	MICE施設入場	MICE施設退場	帰国				
何を	MICEイベントの開催決定		MICE開催(参加)のための準備				イベント実施		アフターコンベンション事後分析		
どのように	① 日本開催予定 → ② 場所の確保依頼 国内主催者 ← ③ 決定の連絡 → イベント会社 ④ 開催決定		主催者: 国内主催者 ↔ 携携 ↔ イベント会社 参加者: 入国 → ホテル移動 → MICE施設移動 → MICE施設				主催者: 国内主催者 ↔ 携携 ↔ イベント会社 ↔ MICE施設 出展者: 出展者 ↔ 交流 ↔ 参加者		主催者: 国内主催者 → アンケート → 参加者 参加者: アフターコンベンション (クルーズ, スカイツリー) → 帰国		
ニーズ	主催者	<ul style="list-style-type: none"> 開催地選定のため施設や周辺観光地の下見をリモートで行いたい ⇒VR、WebでのMICE施設及び周辺観光地確認ツール Reach 会場の空き状況、広さ、収容人数などを把握し、予約を行いたい ⇒MICE施設予約システム Beyond 研究開発者、イベント企画・運営者、マーケター等を繋ぐ環境を整備し、魅力あるコンテンツを生み出したい 政府や自治体(CB含む)と積極的に意見交換ができる場があるといい ⇒マッチメイキングツール Beyond 		<ul style="list-style-type: none"> エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 出席者の出欠管理、移動・宿泊管理等を一括して行いたい ⇒出席者管理システム Beyond 参加者のビザの要不要・必要書類等を一元管理したい ⇒ビザ申請管理システム Beyond 施設のレイアウト等の確認をリモートで行いたい ⇒会場レイアウト確認ツール Reach 出展者を募集する際に、ライトパーソンを特定しコンタクトをしたい ⇒出展者検索システム Beyond 施工時間を短縮してほしい ⇒高度な設置支援サービス Beyond 				<ul style="list-style-type: none"> 複数の関係者と英語でコミュニケーションを取りたい ⇒通訳システム Reach 登壇者等の所在を把握したい ⇒位置情報確認ツール Reach Wi-Fi環境が整備されているといい ⇒無料高速Wi-Fi Reach パンフレット等を電子でやり取りしたい ⇒資料等閲覧アプリ Reach コミュニケーションを活性化したい ⇒当事者同士のコミュニケーションツール Reach エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> 効果的かつ効率的にアンケートを収集したい ⇒アンケート集計ツール Reach MICEで収集したデータをマーケティングに活用したい ⇒マーケティング用データ分析ツール Reach 	
	参加者			<ul style="list-style-type: none"> 手荷物を預ける場所がない ⇒手荷物保管サービス Beyond 				<ul style="list-style-type: none"> トイレがいつも混んでいる ⇒AI等を活用したトイレの空き状況確認ツール Beyond 		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が混雑して帰宅に時間がかかる ⇒駐車場管理ツール Beyond 	
	MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> 施設視察対応時間を削減したい ⇒VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> イベントのスケジュール管理やセミナー会場の場所把握などをアプリで確認したい ⇒ワンストップサービス提供イベントアプリ Reach イベント当日のマッチメイキング等を効果的かつ効率的に行いたい ⇒マッチメイキングツール Reach 空港からの移動や施設間の移動をスムーズに行いたい ⇒外国人向け交通(案内)サービス Reach 							
			<ul style="list-style-type: none"> 会場案内(把握)を効率化したい ⇒デジタルサイネージ Reach 								
			<ul style="list-style-type: none"> 最適な施設運用アドバイスが欲しい ⇒MICE施設予約管理システム Beyond 								

1.6 調査全体のまとめ(全体)

調査全体の結果および考察は以下のとおり

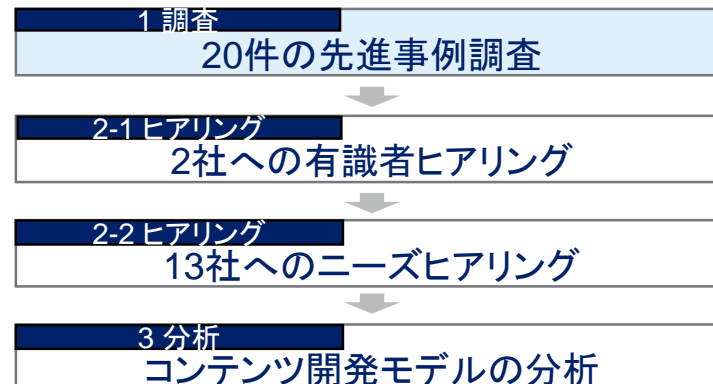
調査結果

- 各種調査から、日本MICE産業へのICTサービス導入の遅れの要因となっている課題およびその背景・理由は以下の通りと考える
 - **知識・情報不足**
 - ・ MICE関係者が、海外のMICE産業で利用されているサービス内容を知らない
 - ・ MICE関係者が、日本の他産業で普及している既存の先進的テクノロジーの活用実績を知らない
 - ・ 国内テクノロジー関連企業が、自社サービスのMICE産業における活用可能性を自覚していない
 - **コスト**
 - ・ MICE主催者は、年に数回のイベントのための導入にコスト面で躊躇している
 - ・ MICE施設は、昨今のテクノロジーの進化が早い状況から、整備に躊躇している
 - **ユーザビリティ**
 - ・ 海外製サービスは、言語の問題等の要因で利便性が低い
 - ・ 日本は高い要素技術を持っているが、利便性の高い製品・サービス開発が難航する傾向がある
- また、主にニーズヒアリングから、多数のニーズを把握した結果、特に優先的に取り組むべき強化ポイントは以下の3つと考えられる(内容は、P.23参照)
 - **コミュニケーション**
 - **労働生産性**
 - **ネットワークインフラ**

考察

- 左記の「知識・情報不足」、「コスト」、「ユーザビリティ」の課題に対し、特に以下3つが解決策として有効と考える
 - **プロモーション**
 - ・ 高い技術や他産業で優良サービスを有する、大手、ベンチャー企業等、国内テクノロジー企業へMICE産業を認知させ、既存サービスの転用や新規サービスを開発すること
 - ・ MICE関係者へ、海外活用事例および上記国内テクノロジー企業のサービスを認知させ、既存サービスの活用や新規サービスを開発してもらうこと
 - **市場競争力**
 - ・ 日本の高い技術力を有するベンチャー企業等がMICE産業へ参入することで、競争力が高まり、コストパフォーマンスの高いサービスが提供できる環境を整備すること
 - **協議・交流環境の整備**
 - ・ 国内テクノロジー企業とMICE関連者が協議・交流できる出来る環境を整備し、MICE関係者のニーズを叶えるユーザビリティの高いサービスを開発すること

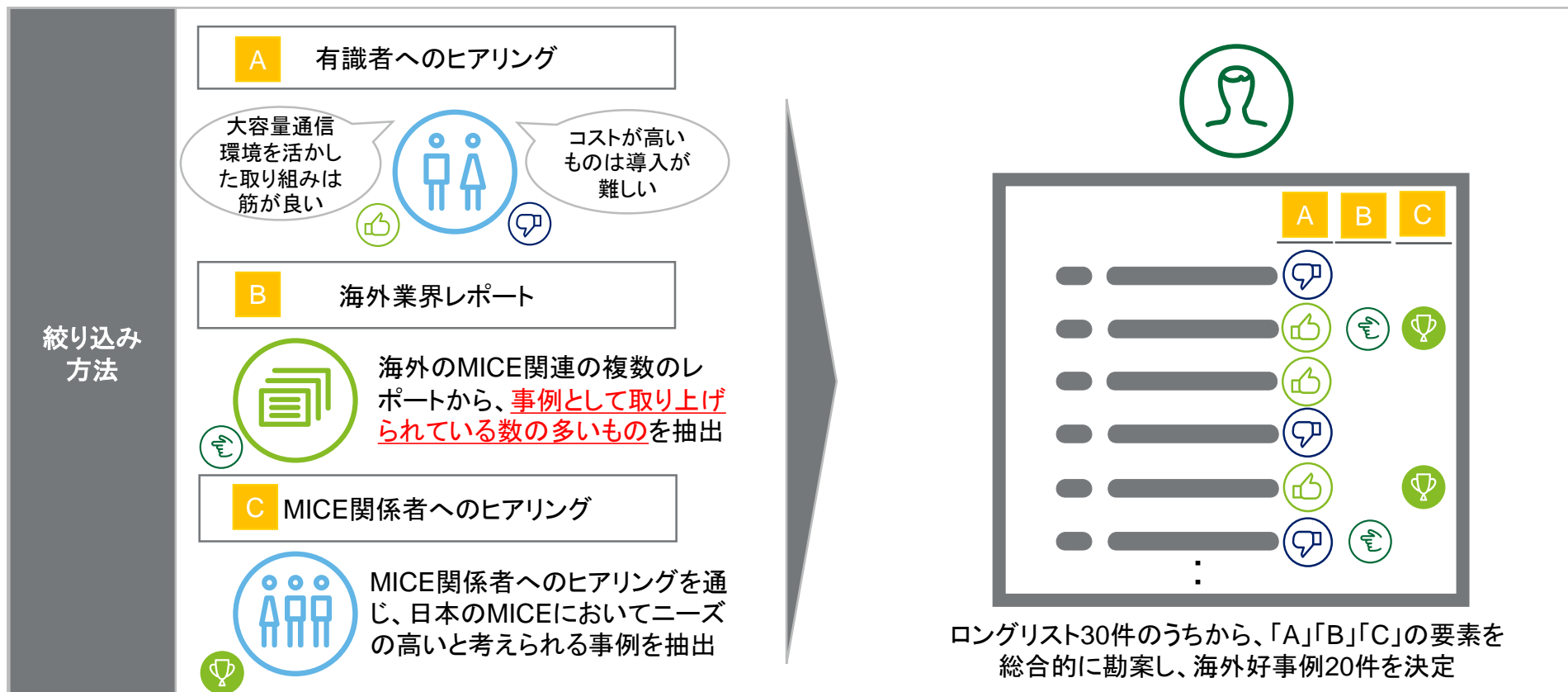
2. 先進的テクノロジー海外活用事例調査



2.1 調査の方向性

デスクトップ調査でのロングリスト作成後、①有識者への事前ヒアリング、②海外の業界レポートを基にした絞り込み、③国内MICE関係者へのヒアリングを行い、20件の海外好事例を決定

事例絞り込み方法



2.2 海外事例調査まとめ

複数の海外業界レポートを基に網羅的にサービス類型を洗い出し、その中で具体的な海外事例20件を各MICE区分・開催時期に偏向がないよう抽出

MICE関連ICTサービス類型マップ

...選定した20件の海外事例の番号

いつ どこで	誘致活動時	開催時			
		開催前	開催中	開催後	
MICE関連 ICT サービス 類型	施設視察 2 3	入場管理・セキュリティ 6	製品プロモーション 15 16 多言語対応 18 施設案内 11 導線分析 14 アプリによるワンストップサービス 7 8 施設内環境の管理 10 キャッシュレス対応 12 演出効果 17 通信環境 9 13 ネットワークサービス	<ul style="list-style-type: none"> VR, AR, MR プロジェクションマッピング SNS等を活用したリアルタイム広告 同時通訳システム 多言語自動翻訳システム 自動文字起こしツール デジタルサイネージ 位置情報システム 音声認識システム 位置情報システム 自動認識(RFID) 導線分析カメラ イベントモバイルアプリ マッチメイキングツール スケジュール通知システム ウェアラブル端末等による環境設定ツール 騒音防止システム モバイル決済システム RFIDリストバンド決済システム 音響・映像システム プロジェクションマッピング 3Dホログラム 無料高速Wi-Fi 臨時Wi-Fiスポット 当事者同士のコミュニケーションツール RFIDを活用した関係者自動検索ツール 	製品プロモーション 20 イベント効果測定 19
	開催地・会場選定のPR	オンライン登録の簡素化 5	製品プロモーション 15 16 多言語対応 18 施設案内 11 導線分析 14 アプリによるワンストップサービス 7 8 施設内環境の管理 10 キャッシュレス対応 12 演出効果 17 通信環境 9 13 ネットワークサービス	<ul style="list-style-type: none"> VR, AR, MR SNS等を活用した広告ツール Google analytics等のトラッキングサービス 	製品プロモーション 20 イベント効果測定 19
	施設予約 4	設置サポート	製品プロモーション 15 16 多言語対応 18 施設案内 11 導線分析 14 アプリによるワンストップサービス 7 8 施設内環境の管理 10 キャッシュレス対応 12 演出効果 17 通信環境 9 13 ネットワークサービス	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数管理システム マーケティング用データ分析ツール アンケート集計ツール 	製品プロモーション 20 イベント効果測定 19
	誘致から開催までの情報支援 1	施設案内 6	製品プロモーション 15 16 多言語対応 18 施設案内 11 導線分析 14 アプリによるワンストップサービス 7 8 施設内環境の管理 10 キャッシュレス対応 12 演出効果 17 通信環境 9 13 ネットワークサービス	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージ AIロボット 	製品プロモーション 20 イベント効果測定 19

代表的なMICE関連ICTサービスの主な利用目的は以下の通り

各サービス類型の利用目的

凡例

◎:直接的受益者

○:間接的受益者

時点	サービス 類型	主な利用目的	受益者			
			参加者	主催者	MICE施設	その他
誘致活動時	施設視察	VR等で現地を確認することで、リモートによる会場の一次選定と視察に係る費用や時間の削減をするため	-	◎	◎	-
	開催地・会場選定のPR	デジタルマーケティング手法を用いたインターネットサービスにより、国内外の主催者等への認知度を向上させ、主要イベント等を誘致する可能性を高めるため	-	-	○	◎ (CB)
	施設予約	施設情報DBにより、会場の空き状況や広さ、収容人数等を一覧で把握し、会場選定を効率化するため	-	◎	◎	-
	誘致から開催までの情報支援	デジタルマーケティング手法を用いたインターネットサービスにより、効果的かつ効率的にイベントを周知するため	○	◎	-	-
開催時	開催前	入場管理・セキュリティ	◎	◎	◎	-
		オンライン登録の簡素化	◎	○	-	-
	設営サポート	-	○	-	◎ (施工会社)	
	施設案内	◎	◎	◎	-	

代表的なMICE関連ICTサービスの主な利用目的は以下の通り

各サービス類型の利用目的

凡例

◎: 直接的受益者

○: 間接的受益者

時点	サービス 類型	主な利用目的	受益者			
			参加者	主催者	MICE施設	その他
開催時	開催中	製品プロモーション	◎	-	-	◎ (出展者)
		多言語対応	◎	◎	◎	◎ (各種当事者)
		施設案内	◎	◎	◎	-
		導線分析	◎	○	-	-
		アプリによるワンストップサービス	◎		-	-
		施設内環境の管理	◎	○	◎	-
		キャッシュレス対応	◎	○	-	◎ (出展者)

代表的なMICE関連ICTサービスの主な利用目的は以下の通り

各サービス類型の利用目的

凡例

◎: 直接的受益者

○: 間接的受益者

時点	サービス 類型	主な利用目的	受益者			
			参加者	主催者	MICE施設	その他
開催中	演出効果	参加者へ非日常空間を提供することで、顧客満足度を高めるため	◎	○	○	-
	通信環境	高速ネットワーク(有線、無線)のMICE施設側の整備により、 <参加者> 快適にモバイル端末(PCやスマートフォン等)を利用するため <主催者> 主催者の費用負担が軽減および様々なICTサービスの活用が増えるため <出展者> 快適にモバイル端末(PCやスマートフォン等)を利用するため 様々なICTサービスの活用が増えるため	◎	◎	-	◎ (出展者)
	ネットワーキング サービス	アプリによる位置情報提供により、参加人数が多いイベントにおける効率的なネットワーキングを可能にするため	◎	○	-	-
開催時	製品プロモーション	VRを活用して、展示会後に、イベント中に見ることが出来なかった製品・サービスをリアルに紹介し、顧客満足度を高めるため	◎	-	-	◎ (出展者)
	イベント効果測定	ROIや顧客満足度等の各種効果測定用のデータから、今後のイベントの改善材料とするため	-	◎	-	○ (出展者)
	導線分析	参加者の会場内の動きを分析することで、今後のイベント企画、会場設営の改善材料とするため	○	◎	-	○ (出展者)

海外事例を以下の通り20件選定

海外事例調査結果 (1/4)

#	時期	サービス類型	カテゴリー	MICE区分	選定理由	参考ページ
1	誘致活動時	誘致から開催までの情報支援	主催者支援ポータルサイト	MICE全般	各開催地の情報が一元的にまとまった充実したサイトはJNTOのホームページ等を除いてあまりなく、誘致活動における情報取得の観点から有用と考えられるため	P.45
2	誘致活動時	施設視察	デジタルプラットフォームを活用した施設視察	MICE全般	会場視察のために現地に来訪する場合であっても、時間的な制約等の観点から、実際に施設内を全て歩き回り確認をすることが難しい場面もあるため、施設内に備えられた3Dディスプレイ等で分かりやすく確認することができるサービスを使ってみたいというニーズが高いため	P.45
3	誘致活動時	施設視察	テクノロジーを活用した遠隔でのバーチャル施設視察	MICE全般	VR等で現地を確認することで、視察に係る費用や時間の削減をすることができる等のメリットがあることから、誘致の際にVRで会場視察をしたいというニーズが高いため	P.46
4	誘致活動時	施設予約	MICE施設予約システム	Meeting	会場選定に要する時間や労力を低減するため、MICE施設の空き状況を一括検索し、予約までスムーズに行えるサービスについては、特に主催者側のニーズが高いと思われるため	P.46

海外事例を以下の通り20件選定

海外事例調査結果 (2/4)

#	時期	サービス類型	カテゴリ	MICE区分	選定理由	参考ページ
5	開催前	オンライン登録の簡素化	イベント参加登録プロセスの簡素化	Event	AIテクノロジーの進歩は目覚ましく、参加者が不便(時間がかかる)と考えているイベント登録プロセスを簡素化する仕組みは今後ニーズがあると考えられるため	P.47
6	開催前	入場管理・セキュリティ	顔認証による入場管理	Event	顔認証による入場管理の分野では、日本のセンサーやカメラ認証基礎技術が世界基準の中でも優れているため	P.47
7	開催中	アプリによるワンストップサービス	アプリの活用によるスケジュール管理等の各種機能の提供	Exhibition	日本においては、イベントアプリの普及が遅れているのが実態である 海外ではアプリの利用が主流であり、日本でも今後導入が加速すると考えられる	P.48
8	開催中	アプリによるワンストップサービス	現地で使えるスマホの配布	Incentive	例えば、ホテルが提供するHandy(客室備え付け、宿泊中は自由な持出し可能なスマホ)は、今後大きな普及が期待される 「MICE×Hotel」や「MICE×観光」等のアプリを搭載したスマホの利用についても、今後ニーズがあると考えられるため	P.48
9	開催中	通信環境	通信環境の整備(高速Wi-Fi等)	MICE全般	サンテック(シンガポール)や台北国際貿易センター(台湾)など海外の代表的なMICE施設では、施設に常設された無料で利用可能なWi-Fi通信環境が整っており、日本のMICE施設も同様の設備が必要とされているため	P.49
10	開催中	施設内環境の管理	ウェアラブルの活用による最適な環境設定(空調、照明等)	Event	使用用途は、施設内環境の管理のみならず、入退管理や決済サービスにも活用でき、ワンストップサービスとしての活用可能性がある また、感情の数値化ができれば、満足度を測定することもできるため	P.49

海外事例を以下の通り20件選定

海外事例調査結果 (3/4)

#	時期	サービス類型	カテゴリー	MICE区分	選定理由	参考ページ
11	開催中	施設案内	デジタルサイネージの活用による会場案内等	Exhibition	海外のMICE施設では、施設側にとっても広告収入が見込めることからデジタルサイネージの普及は多く進んでいる また、デジタルサイネージによるリアルタイムな会場・スケジュール案内のニーズは参加者にとっても高いと考えられるため	P.50
12	開催中	キャッシュレス対応	新たなモバイル決済システム	Event	キャッシュレス化は世界的にスタンダードであり、日本でも同様の動きが加速すると考えられるため	P.50
13	開催中	通信環境	複数のオーディオチャンネルを放送できる通信技術	Convention	イベントによっては同時に複数のセミナーが開催されることが多く、大画面による複数のオーディオチャンネルを一か所で同時に見ることができる環境のニーズは高いと考えられるため	P.51
14	開催中	導線分析	データ分析による施設内配置/スケジュールリングの最適化	Convention	参加者が多数にのぼるイベントにおいては、混雑を回避し、参加者にストレスを感じさせない仕組みづくりが重要である データ分析に基づく座席配置やスケジュールリングの最適化は事務局支援の面でニーズがあると考えられるため	P.51
15	開催中	製品プロモーション	VR/ARによる製品プロモーションの効率化	Exhibition	国内外の展示会場においてAR/VRで自社製品紹介を行うことが多くなってきている。VR/ARといった既に主流のコンテンツに追加の仕掛けを行うことで、差別化されるコンテンツが生まれる可能性があるため	P.52

海外事例を以下の通り20件選定

海外事例調査結果 (4/4)

#	時期	サービス類型	カテゴリ	MICE区分	選定理由	参考ページ
16	開催中	製品プロモーション	RFIDの活用によるスムーズな情報取得	Exhibition	RFIDのコスト問題はあるが、日本のセンサー技術は最先端であることから、既存のコンテンツを凌駕する製品を開発することができる可能性があるため	P.52
17	開催中	演出効果	ホログラムの活用によるCEO等による演出	Exhibition	完全なホログラムは、世界でもまだ製品化されていない 5Gインフラを各国に先行して整備する日本は、この分野で優位性を持つ可能性が高いため	P.53
18	開催中	多言語対応	AIによる通訳機能	Convention	英語圏以外のアジアパシフィックは特に言語翻訳のサービスが必要である 現在ポケットーク等のサービスも出てきており、市場の成長が期待されるため	P.53
19	開催後	導線分析	AIを活用した来場客の行動予測に基づく混雑回避	Event	AI技術を活用し、イベント参加者自身の最適な行動や過ごし方を提案することにより、パーソナルニーズを充足するトレンドが高まりつつあるため	P.54
20	開催後	イベント効果測定	イベント後のデータ分析	Exhibition	海外の出展者は、MICEイベントの費用対効果(ROI)を重視し、日本においてもその傾向が年々高まっている イベント開催中の動向のデータ分析を行い、主催者がその情報を出展者に提供するといった活用等にニーズがあると考えられるため	P.54

2.3 海外事例個別内容

MICE誘致活動時の調査事例の解説は以下の通り

<誘致活動時> (1/4)

サービス 類型	誘致から開催までの情報支援
技術分類	ウェブサービス・モバイルアプリ開発 (ポータルサイト・SNS)
MICE区分/ その他	MICE全般
MICE イベント名称	複数イベント
MICE内容	複数イベント
誘致 開催地	中国(マカオ)
導入企業・団 体	Macao Trade and Investment Promotion Institute (IPIM)
導入製品・サー ビス(企業名)	Macao MICE Portal (マカオ政府)
活用事例	【主催者支援ポータルサイト】 MICEの開催に関心のある主催者を支援する包括的なサービスを提供するポータルサイトを構築 マカオへのイベントの誘致、紹介、主催者へのコンベンションや展覧会の最新情報提供、フォローアップサービス、イベントの支援を担当するスタッフの配置、コンベンションの申請の支援、IPIMが参加した国内外のイベントでプロモーションの機会の提供、マカオ企業のMICEプロジェクトの開発支援、潜在的なパートナーのマッチングサービスを提供

出典: Macao MICE Portal (マカオ政府)のHP参照

<誘致活動時> (2/4)

サービス 類型	施設視察
技術分類	デジタルプラットフォーム
MICE区分/ その他	MICE全般
MICE イベント名称	複数イベント
MICE内容	複数イベント
誘致 開催地	オーストラリア(メルボルン)
導入企業・団 体	Melbourne Convention & Exhibition Centre
導入製品・サー ビス(企業名)	Visualisation Studio (Scharp.)
活用事例	【デジタルプラットフォームを活用した施設視察】 イベント主催者は施設の担当者と協力して、イベントスペースの仮想3Dイメージを作成でき、最終的な意思決定が行われる前にオーディオ、ビデオ、照明のさまざまなオプションのテストができるデジタルプラットフォームを提供

出典: Visualisation StudioのHP参照

MICE誘致活動時の調査事例の解説は以下の通り

<誘致活動時> (3/4)

サービス 類型	施設視察
技術分類	VR
MICE区分/ その他	MICE全般
MICE イベント名称	複数イベント
MICE内容	複数イベント
誘致 開催地	米国(ワシントンDC)
導入企業・団 体	Events DC(ワシントンDC DMO)
導入製品・サー ビス(企業名)	Samsung Gear VR (Samsung)、Oculus Rift (Oculus)
活用事例	【テクノロジーを活用した遠隔でのバーチャル施設視察】 Events DCは、Samsung Gear VRやOculus Riftヘッド セットを使用して、ウォルター・E・ワシントン・コンベンシ ョンセンター、その他の施設のバーチャル視察を提供 イベントプランナーは実際に現地に足を運ぶことなく、開 催地の選定を行うことが可能になる

出典：『Marriott Hotels Introduces The First Ever In-Room Virtual Reality Travel Experience』
(Marriott Internationalのプレスリリース参照)

<誘致活動時> (4/4)

サービス 類型	施設予約
技術分類	ウェブサービス・モバイルアプリ開発(ポータルサイト・ SNS)
MICE区分/ その他	Meeting
MICE イベント名称	N/A
MICE内容	N/A
誘致 開催地	米国やシンガポールなどで展開
導入企業・団 体	Best Western Hotels Oaks Hotel 等
導入製品・サー ビス(企業名)	Expedia Group's MICE solution (Expedia)
活用事例	【MICE施設予約システム】 オンライン旅行会社であるExpediaは、MICEのオンライン自動 予約エンジンを開発・導入した Expedia Powered Technologyのテクノロジーソリューションは、 ホテル(MICE会場)が自社のWebサイトに同システムを導入で き、これにより中小規模の会議やイベントの開催に時間のかか るRFPプロセス(会場の借手が貸手に対して必要な要件を提示 することが簡素化され、ホテル側がRFPに約20倍速く応答で きるようになる)とのこと

出典：Expedia Powered TechnologyのHP参照

MICE開催時(開催前)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催前 (1/16)

サービス 類型	オンライン登録の簡素化
技術分類	AI/ロボティクス
MICE区分/ その他	Event
MICE イベント名称	Innovefest unbound 2018
MICE内容	東南アジア最大のイノベーションイベント
誘致 開催地	シンガポール
導入企業・団 体	NUS EnterPRise, unbound
導入製品・サー ビス(企業名)	jumper.ai platform(Jumper.ai)
活用事例	<p>【イベント参加登録プロセスの簡素化】</p> <p>イベントの参加登録の際のアカウントを作成、多岐にわたる情報の記入、オンラインチケットの購入など、参加希望者にとって様々な工程を踏まなければならない、多くの機会損失が存在している</p> <p>Jumper.ai platformは2018年にMarina Bay Sands Expo and Convention Centreで開催されたInnovefest unboundのオンラインチケット販売で活用され、AIチャットボット(文字入力でのAIとの会話形式で展開される)による自動登録や支払いを実施し、登録プロセスを簡素化した</p>

出典：Innovefest unbound 2018のHP参照

<開催時> 開催前 (2/16)

サービス 類型	入場管理・セキュリティ
技術分類	顔認証/生体認証
MICE区分/ その他	Event
MICE イベント名称	Event
MICE内容	国際運動競技大会
誘致 開催地	台湾(台北)
導入企業・団 体	ユニバーシアード競技大会運営者
導入製品・サー ビス(企業名)	NeoFace (NEC)
活用事例	<p>【顔認証による入場管理】</p> <p>NECの顔認証エンジン「NeoFace」を活用し、事前に撮影して登録しておいた運営スタッフの顔画像と、ゲートに設置したカメラで撮影した顔画像を照合し、<u>立ち止まる必要なしに歩きながらスムーズな認証ができる最先端技術を提供</u></p>

出典：『NEC、ユニバーシアード台北大会に顔認証システムを提供』(NECのプレスリリース参照)

MICE開催時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (3/16)

サービス 類型	アプリによるワンストップサービス
技術分類	ウェブサービス・モバイルアプリ開発 (イベントアプリ)
MICE区分/そ の他	Exhibition
MICE イベント名称	IMEX 2018
MICE内容	欧州最大のMICE商談会
誘致 開催地	ドイツ(フランクフルト)
導入企業・団 体	IMEX Group
導入製品・サー ビス(企業名)	IMEX App (DoubleDutch)
活用事例	【アプリの活用によるスケジュール管理等の各種機能の提供】 参加者は、事前にスマートフォンにIMEX appをインストールしておく、参加者個人のスケジュール管理、GPS機能を利用したフロアマップ、参加者間でのメッセージ機能、QRコード等を利用した名刺交換機能、セッション内での投票やQ&A等が可能となる

出典:『IMEX Selects DoubleDutch to Power US and Frankfurt Events』
(DoubleDutchのプレスリリース参照)

<開催時> 開催中 (4/16)

サービス 類型	アプリによるワンストップサービス
技術分類	ウェブサービス・モバイルアプリ開発(イベントアプリ)
MICE区分/そ の他	Incentive tour
MICE イベント名称	N/A
MICE内容	N/A
誘致 開催地	タイ(バンコク)
導入企業・団 体	Anatara Riverside Bangkok hotel
導入製品・サー ビス(企業名)	Google (Android端末)
活用事例	【現地で使えるスマホの配布】 Anatara Riverside Bangkok hotelは、インセンティブツアー参加者に容量無制限及び電話も可能なアンドロイド端末を無料で配布(専用アプリも整備)し、同製品を活用することで、主催者がバンコクツアーを行ったり、参加者同士が旅行中に繋がりがあえる環境を整えている

出典:Anatara Riverside Bangkok hotelのHP参照

MICE誘致活動時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (5/16)

サービス 類型	通信環境
技術分類	通信
MICE区分/ その他	MICE全般
MICE イベント名称	C3AFA Singapore
MICE内容	東南アジア最大規模となるポップカルチャーの祭典
誘致 開催地	シンガポール
導入企業・団 体	SUNTEC Singapore
導入製品・サー ビス(企業名)	高速Wi-Fi
活用事例	【通信環境の整備(高速Wi-Fi等)】 ハイスピードWi-Fiが、無料で使用でき、8,000個ものデバイスが同時に接続できるシステムを導入している

出典:『Free Wifi Now Available at Suntec City!』(Suntec Singaporeのプレスリリース参照)

<開催時> 開催中 (6/16)

サービス 類型	施設内環境の管理
技術分類	ウェアラブル
MICE区分/ その他	Event
MICE イベント名称	South by Southwest (SXSW)等
MICE内容	音楽祭・映画祭・インタラクティブフェスティバルなどを組み合わせた大規模イベント
誘致 開催地	米国(テキサス)
導入企業・団 体	Pepsi
導入製品・サー ビス(企業名)	Lightwave
活用事例	【ウェアラブルの活用による最適な環境設定(空調、照明等)】 Pepsi社が主催する音楽イベントにて、Lightwaveというリストバンドのセンサーからあらゆる生体観測データを収集し分析 心拍数や汗の状態、体温、身体の動き、音などのもとに、分析を行い、施設内の温度、照明、音楽の設定管理に活用

出典: LightwaveのHP参照

MICE開催時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (7/16)

サービス 類型	施設案内
技術分類	デジタルサイネージ
MICE区分/ その他	Exhibition
MICE イベント名称	IMEX2016
MICE内容	欧州最大規模のMICE見本市
誘致 開催地	ドイツ(フランクフルト)
導入企業・団 体	IMEX2016
導入製品・サー ビス(企業名)	イベントデジタルサイネージ(RICOH)
活用事例	【デジタルサイネージの活用による会場案内等】 イベントにおけるリアルタイムなスケジュール会場案内およびイベントスポンサーの広告をデジタルサイネージにて提供

出典: RICOHのHP参照

<開催時> 開催中 (8/16)

サービス 類型	キャッシュレス対応
技術分類	通信
MICE区分/ その他	Event
MICE イベント名称	SXSW 2017
MICE内容	音楽祭・映画祭・インタラクティブフェスティバルなどを組み合わせた大規模イベント
誘致 開催地	米国(オースティン)
導入企業・団 体	SXSW
導入製品・サー ビス(企業名)	Connect&GO mobile payment system (Connect&GO)
活用事例	【新たなモバイル決済システム】 South by Southwestでは、Connect & GOやMobeewaveが新たなモバイル決済ソリューションを提供 このシステムは、出展者が事前にカスタマイズされたスマートフォンを使用し、お客様はクレジットカード、デビットカード、RFID全ての方法で決済を行うことができるもの 買手にとっては、支払手段が多様化するメリットがあり、売手にとってはイベント会場に支払いデバイスがない場合に手軽に利用できるメリットがある

出典: Connect&GOのHP参照

MICE開催時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (9/16)

サービス 類型	通信環境
技術分類	通信
MICE区分/ その他	Convention
MICE イベント名称	Convening Leaders 2018
MICE内容	MICEイベントで活用される最先端テクノロジーのカンファレンス
誘致 開催地	米国(ナッシュビル)
導入企業・団 体	Professional Convention Management Association (PCMA)
導入製品・サー ビス(企業名)	不明
活用事例	【複数のオーディオチャンネルを放送できる通信技術】 Convening Leaders 2018では、会場内で行われている複数のセミナーの様子を12の画面分割した巨大なスクリーンに映し出し、参加者が提供されたヘッドセットのチャンネル切り替えて、聴きたいセミナーを選択するという取り組みが行われた。

出典: Professional Convention Management Association (PCMA)のHP参照

<開催時> 開催中 (10/16)

サービス 類型	導線分析
技術分類	データ分析/ビッグデータ
MICE区分/ その他	Convention
MICE イベント名称	Cisco Global Sales Experience meeting 2017
MICE内容	IT及びネットワークの機器開発企業であるCiscoが主催する会議
誘致 開催地	米国(ネバダ)
導入企業・団 体	George P. Johnson(イベントマーケティング会社)
導入製品・サー ビス(企業名)	不明
活用事例	【データ分析による施設内配置/スケジューリングの最適化】 George P. Johnsonは、ラスベガスで開催されたCisco Global Sales Experienceミーティングにおいて、18,000人以上の出席者がMGM Grand Garden ArenaとMandalay Bay Convention Centerとの間を移動するデータをリアルタイムで収集するためにCiscoのロケーションシステムを利用した

出典: George P. JohnsonのHP参照

MICE開催時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (11/16)

サービス 類型	製品プロモーション
技術分類	VR
MICE区分/ その他	Exhibition
MICE イベント名称	2017 Intex Expo
MICE内容	世界最大級の壁床見本市
誘致 開催地	米国(メリーランド)
導入企業・団 体	Continental Building Products (建設建材の製造販売会 社)
導入製品・サー ビス(企業名)	Oculus Rift VR (Oculus)
活用事例	【VR/ARの活用による製品プロモーションの効率化】 壁や天井など建築建材に特化した世界最大のトレード ショー「2017 Intex Expo」において、VRヘッドセットを使用し、 実際の建設現場で石膏ボードへどのように塗装を行うかを 実演する製品プロモーションイベントが行われた

出典: Continental Building ProductsのHP参照

<開催時> 開催中 (12/16)

サービス 類型	製品プロモーション
技術分類	自動認識(RFID)
MICE区分/ その他	Exhibition
MICE イベント名称	North American International Auto Show 2016
MICE内容	デトロイトで行われる世界最大級のモーターショー
誘致 開催地	米国(ミシガン)
導入企業・団 体	日産
導入製品・サー ビス(企業名)	不明
活用事例	【RFIDの活用によるスムーズな情報取得】 デトロイトにて開催された「North American International Auto Show」にて、日産自動車はRFIDやbeaconsを活用し、 ユーザー体験型のプロモーションを行った 参加者はRFIDが導入された展示物に近づくと、車両に関す る情報をスマートフォンで入手できたり、マーケティング資料 をダウンロードすることができる

出典: 『RFID Technology case study』(EXHIBITOR Magazine)参照

MICE開催時(開催中)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催中 (13/16)

サービス 類型	演出効果
技術分類	ホログラムの活用によるCEO等による演出
MICE区分/ その他	Exhibition
MICE イベント名称	COMPUTEX TAIPEI 2018
MICE内容	世界有数のICTとIoTに関する見本市
誘致 開催地	台湾(台北)
導入企業・団 体	Intel
導入製品・サー ビス(企業名)	不明(VNTANA)
活用事例	【ホログラムの活用によるCEO等による演出】 台北で開催された展示会「Computex」にて、Intel社はVNTANA社のホログラム技術を活用し、新製品の発表を行った。Intel社のGM Gregory Bryant氏がホログラムで出現し、会場の客との質疑応答などにリアルタイムで対応した

出典: IntelのHP参照

<開催時> 開催中 (14/16)

サービス 類型	多言語対応
技術分類	AIによる通訳機能
MICE区分/ その他	Convention
MICE イベント名称	BOAO Forum Asia 2018
MICE内容	国際経済会議であるダボス会議のアジア版
誘致 開催地	中国(海南省ボアオ)
導入企業・団 体	BOAO Forum for Asia (ダボス会議のアジア版)
導入製品・サー ビス(企業名)	AI自動通訳機(テンセント)
活用事例	【AIによる通訳機能】 ボアオ・アジア・フォーラムにおいて、テンセントのAI自動通訳機が初めて使用されることとなり、テクノロジー関係者や人工知能関係者の注目を集めるイベントとなった また、近年ウェアラブル機器の分野の中でもヒアラブル端末と呼ばれるイヤホン型コンピューターが続々と製品化されており、中でもBragi社とIBM社が協同で開発したBragi Dashは、装着した人同士であれば、互いに異なる言語で話していても、耳には翻訳された言葉が聞こえる同時通訳機能を搭載している

出典: 『ボアオ・フォーラムにテンセントのAI同時通訳が初登場』(京華創業通信)

MICE開催時(開催後)の調査事例の解説は以下の通り

<開催時> 開催後 (15/16)

サービス 類型	導線分析
技術分類	AIを活用した来場客の行動予測に基づく混乱回避
MICE区分/ その他	Event
MICE イベント名称	複数イベント
MICE内容	N/A
誘致 開催地	シンガポール
導入企業・団 体	N/A (実証実験のため)
導入製品・サー ビス(企業名)	Human Centric AI Zinrai (富士通)
活用事例	<p>【AIを活用した来場客の行動予測に基づく混雑回避】 富士通研究所は、シンガポールのイベント施設、スポーツ施設、商業施設において人・交通の混雑を緩和する実証実験を行ったイベントなどに参加した後、帰宅まで混雑が予想される状況で、自分にあった最適な行動や過ごし方をスマートフォンのアプリケーションを通じて提案するAI技術「Human Centric AI Zinrai」を活用し、提案内容を適切に調整することによって、混雑時間帯のシフトや交通手段の分散などによる混雑緩和を実現する</p> <p>具体的には、イベント参加者に商業施設のクーポン券を配布することで、帰宅時の混雑が抑えられるという結果が出ている</p>

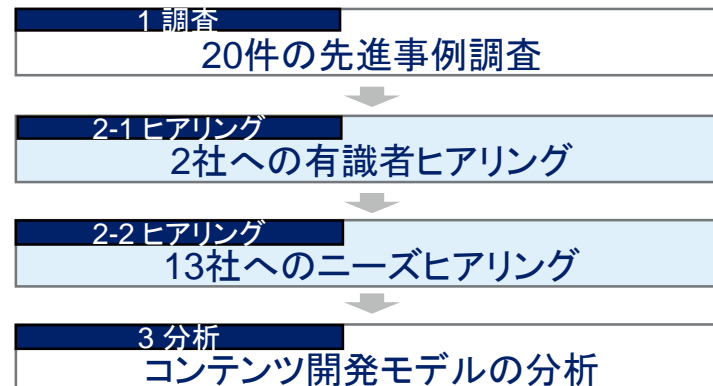
出典:『AI技術「Zinrai」を人の行動特性に適用』(富士通のプレスリリース)参照

<開催時> 開催後 (16/16)

サービス 類型	イベント効果測定
技術分類	イベント後のデータ分析
MICE区分/ その他	Exhibition
MICE イベント名称	IMEX2018
MICE内容	欧州最大のMICE商談会
誘致 開催地	ドイツ(フランクフルト)
導入企業・団 体	IMEX group
導入製品・サー ビス(企業名)	IMEX app (DoubleDutch)
活用事例	<p>【イベント後のデータ分析】 主催者側はアプリを利用し出展者や参加者のイベント開催中の動向をデータ収集し、そのデータを分析ソースとして活用することができる</p> <p>具体的には、来場者の来場からブース訪問、退出まで一連の動きをデータ化したり、各ブースの訪問者数や来場者の行動傾向を可視化し、分析・マーケティングに活用している</p>

出典: DoubleDutch社のHP参照

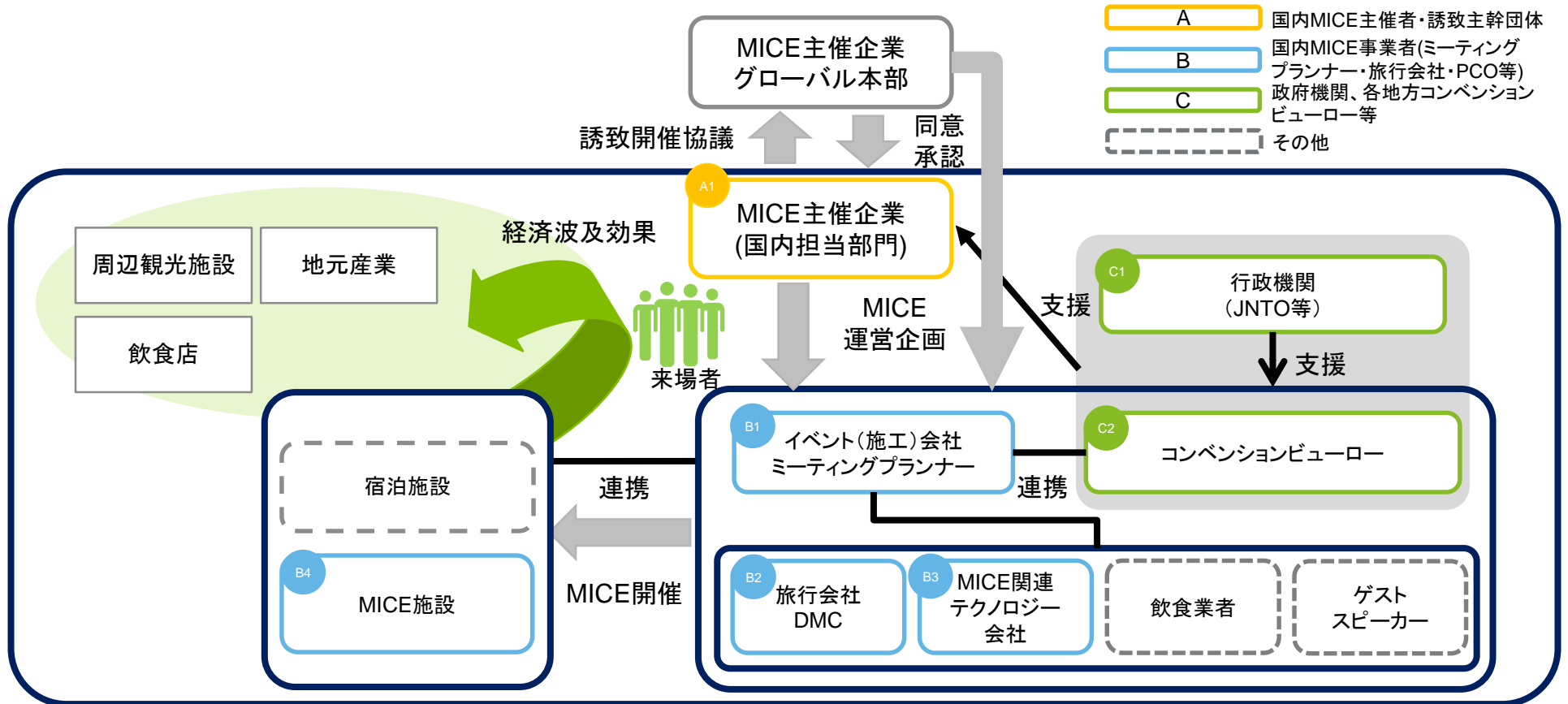
3. 国内MICE関係者に対するニーズ調査



3.1 MICE関係者マッピング

Meeting及びIncentive tour誘致に係る関連プレイヤーは以下の通り

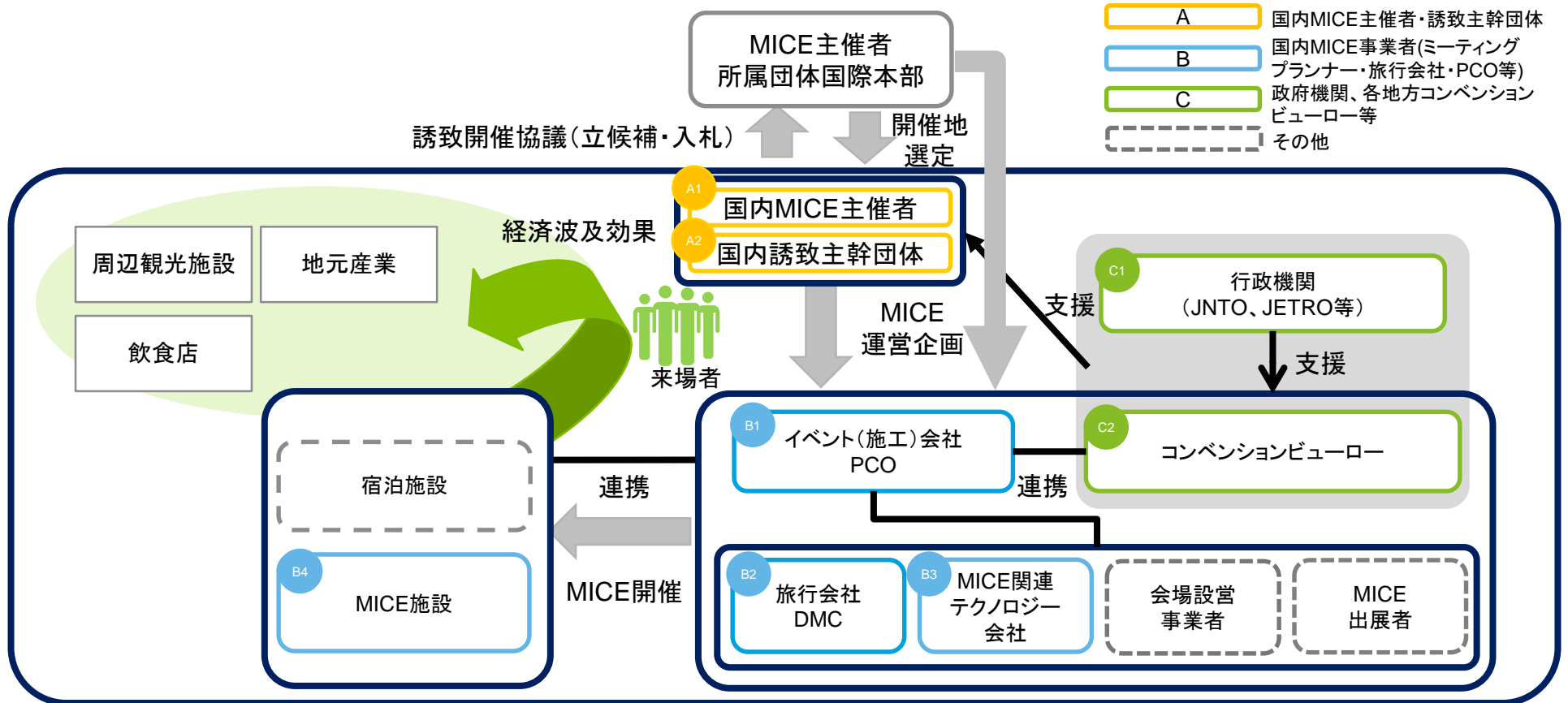
Meeting及びIncentive tourの誘致開催に係る想定プレイヤーマップ(*1)



(*1) 当該プレイヤーマップは想定される類型の1つであり、実際の誘致開催においては関与するプレイヤーやその関係性は変動する

Convention及びExhibition/Eventの誘致に係る関連プレイヤーは以下の通り

Convention及びExhibition/Eventの誘致開催に係る想定プレイヤーマップ^(*)




(*1) 当該プレイヤーマップは想定される種類の1つであり、実際の誘致開催においては関与するプレイヤーやその関係性は変動する

3.2 ヒアリング対象企業






























ヒアリングを実施した企業・団体は以下の15社であり、各カテゴリごとに満遍なくヒアリングを実施

2社への有識者ヒアリング調査対象(国内MICE事業者)

 : 各社の主な事業領域

カテゴリ	MICE区分	会社	M	I	C	E
国内MICE事業者	イベント(施工)会社	A社				
	旅行会社	B社				

13社へのニーズヒアリング調査対象(国内MICE主催者・誘致主幹団体、国内MICE事業者)

カテゴリ	MICE区分	会社	M	I	C	E
国内MICE主催者	国内MICE主催者	C社				
		D社				
		E社				
	国内誘致主幹団体	F社				
国内MICE事業者	イベント(施行)会社/PCO	G社				
		H社				
	MICE関連テクノロジー会社	I社				
		J社				
		K社				
		L社				
	MICE施設	M社				
N社						
政府機関等	コンベンションビューロー	O社				

3.3 ヒアリング事項のまとめ

誘致時におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (1/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
誘致時	VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> MICE施設内を遠隔から確認したい MICE施設内だけでなく周辺観光地も視察ができ、大画面で臨場感があり、行ってみたいと思わせられるようなツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 会場視察のための渡航費等のコスト削減になる 来場者は、ビジネス目的で来日するものの、<u>アフターコンベンションを楽しみに来日する方も多い</u> 	高
		<MICE施設> <ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 視察時に視察対象の会場が使用中で見ることが出来ない場合があり、当該ツールがあると便利である <u>視察対応に人手が必要となるため、人手が足りない状況下等では便利である</u> 	高
	MICE施設予約システム	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> 会場の空き状況、広さや収容人数などが一覧で把握できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に施設の空き状況の確認は電話の問い合わせであり、<u>主催者にとっては対応負荷が高い</u> 	低
		<MICE施設> <ul style="list-style-type: none"> 同上 	<ul style="list-style-type: none"> 施設空き状況の確認等の電話対応作業に人手が必要となる レベニューマネジメントの上で、<u>予約依頼の優先順位付けが必要なため、マニュアル作業が通常必要となるという課題がある</u> 	低
	マッチメイキングツール	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> 研究開発者、イベント企画・運営者、マーケター等を繋ぐ環境を整備し、魅力あるコンテンツを生み出したい 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的なイベントは、面白いコンテンツや一貫したコンセプトが存在する 日本は、優れたテクノロジーを多く有するが、<u>コンテンツ開発にうまく活かせていない</u> 	低
	マッチメイキングツール	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> 国際会議等の誘致の決定権者となる関連学会の有力者とのリレーション構築を支援するツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議等の誘致においては、<u>イベント誘致決定権者とのリレーション構築が重要</u> 	低
	マッチメイキングツール	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> 政府や自治体（CB含む）と積極的に意見交換ができる場があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 政府や自治体が海外からの国際会議等の誘客に際して、特定の施設を利用したいという依頼はあるが、主に予算や日程感での折り合いがつかない場合が多い 意見交換する場が増えることで、<u>有効な事前対応策を講じることができると考えられる</u> 	低
	使いやすいデータベース	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> ICCAが提供している膨大な情報量を所有するデータベースのユーザビリティの向上があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> PCOではICCAのデータベース等を活用すること多いが、<u>データが膨大であり、取得したい情報を上手く抽出できないことが多い（検索をかける上でテクニックが必要で初心者には難しい）</u> 	低
SNS等を活用したマーケティングツール	<主催者> <ul style="list-style-type: none"> 旅行サイトの口コミやSNSツールの活用を促進する試みを行うことで、来場者数を増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者の口コミや、SNS等での人気により、<u>来場者数に大きな影響を与えるため、マーケティング活動には力を入れる必要がある</u> 	高	

開催時(開催前)におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (2/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
開催時 開催前	出席者管理システム	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 出席者数やその同伴者の移動・宿泊等の詳細な情報を管理できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動、宿泊、食事等の要望等を出席者が個別に記入した情報をExcelで一括管理しており、<u>負荷の高い作業となっている</u> ■ 出席者が多いイベントでキャンセルが大量に発生した場合、<u>多額のキャンセル料が発生するケースがあるため、人数を正確に把握しキャンセル料を最小限に止めたい</u> 	低
	ビザ申請管理システム	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 出席者のビザ申請管理ができるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者は多数の国から来日するため、<u>ビザの要不要の確認やビザ申請に必要な資料の確認に高い負荷が掛かっている</u> 	低
	会場レイアウト確認ツール	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な関連当事者とコミュニケーションを取りながらバーチャルで施設レイアウトを確認できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE会場で設備配置等のレイアウトを構成する場合、<u>物理的・時間的な制約から複数のパターンのシミュレーションが難しい</u> 	高
	出展者検索システム	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 主催者が出展者を募集する際に、ライトパーソンを特定しコンタクトを取ることが出来るツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 展示会では、多くの良質な出展者を集めることが重要となるが、<u>イベントのテーマに沿った出展者へ効率的にアプローチすることは難しい</u> 	低
	MICE施設予約管理システム	<p><MICE施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設担当者の予約管理を支援・最適化するツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予約済や成約予定の会議室の入れ替えなどはアナログで管理しているため 	低
	高度な設営支援サービス	<p><主催者、施工会社></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 設営には高い技術力が必要のため、技術力を支援するツールがあるとよい(以下、例示) ■ 資材搬入等の工程管理方法がデータベース化されているとよい ■ ARやプロジェクションマッピング等を活用し、ブース設営を効率化したい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高度な技術を駆使した先進的なイベントを行う場合、<u>設営を担える施工業者が限定的である</u> ■ ブース設営のICTサービス活用により、<u>設営日数を短縮できれば、イベント開催日を増やすことができる</u> ■ 例えば、現状、各主催者、施工会社、MICE施設等が独自のノウハウで工程管理等を行っているが、<u>業界全体でデータベース化を行うことで、資材搬入等の業務を効率化できる可能性が高い。また、AR等のテクノロジーを用い、施工人材の業務効率を向上させることのできる仕組みがあるとよい</u> 	低
	手荷物保管サービス	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会場のロッカーの数が不足する場合には、代替するツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>滞在型イベントでない場合、イベント会場に荷物を持ち込む参加者が多いため、ロッカーが不足するケースが多い</u> 	低
デジタルサイネージ	<p><参加者、MICE施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 主催者がイベントに合わせて会場案内等を柔軟に変更できるデジタルサイネージがあるとよい ■ デジタルサイネージ全体を効率的に管理できるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>日本のイベントでは、誘導員や看板等で会場案内や会場誘導を行うことが多く、非効率的なオペレーションとなっている</u> ■ 海外では、ソフトウェアを介して会場内のデジタルサイネージ全体を効率よく操作するシステムが適切に整備されている 	高	

開催時(開催前)におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (3/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
開催時 開催前	演出イメージ情報サイト	<主催者> ■ コンセプトに合った演出イメージの情報収集ができる演出案がまとめられたサイトがあるとよい	■ <u>コンセプトは主催者で考えることが多いが、イベントの演出イメージがつかない</u>	低
	翻訳システム	<主催者> ■ 配布資料等の翻訳が、短期間かつ高精度に行えるツールがあるとよい	■ <u>直前まで配布資料の内容が決定せず、直前の資料翻訳に高い負荷が掛かる</u>	低
	AI契約書チェックシステム	<主催者、MICE施設> ■ 契約書内容を自動的にチェックするツールがあるとよい	■ 海外主催者と契約を行う場合には、契約書は基本的に英文であり、項目数が多く契約書チェックに多くの時間を要する	低
	高度リアルタイム資料共有システム	<主催者、MICE施設> ■ 遠隔会議で、視覚的に理解が進む情報共有ツールがあるとよい	■ 遠隔会議は、言葉や資料共有では感覚や想いが伝わりづらい場合がある	低
	国内外のイベント検索ツール	<参加者、主催者> ■ 国内外のイベント開催情報が把握できる情報提供ツールがあるとよい	■ ICCAでは、詳細なイベント開催情報を提供しているが、 <u>日本に同様の情報提供機関が少ないため、イベント関係者等はインターネット等で調査している</u>	高
	レンタル機材プラットフォーム	<主催者> ■ 最先端の機器をレンタルできる環境があるとよい	■ 費用対効果の観点から、機材のレンタル会社が最新のテクノロジー機材を保有・貸し出しできる環境が整っていない ■ <u>MICE関連の機材に関する情報が一つのプラットフォーム上で一元化されることにより、顧客の利用可能性が高まると考えられる</u>	低
	入場バッチ発行プリンター	<主催者> ■ 入場バッチを会場ですぐに発行できるプリンターがあるとよい	■ 参加者の入場バッチを発行するプリンターは、海外ではMICE施設に備え付けられているところがあるが、国内ではあまり見受けられない ■ 現在は、参加者が自ら参加証をプリンターで印刷しなければならず負担となっている	高

開催時(開催中)におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (4/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
開催時 開催中	通訳システム	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる言語の者同士でも円滑に会議ができる自動翻訳ツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな会議において、英語が流暢に話せない参加者は発言する機会が制限される 	高
	位置情報確認ツール	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 登壇者やVIPの位置が把握できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 登壇者が定刻になってもステージ付近に現れないなどの事象はよく発生し、イベント進行に影響する 特定の人に会いたいというニーズは多く、すぐに探せると便利(個人情報/セキュリティの観点から、個人の行動を把握されたくないという参加者も存在) 	高
	無料高速Wi-Fi	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 数万人が参加する大規模イベントでも快適にネットワークが利用できるWi-Fi環境があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 国内のMICE施設では無料Wi-Fiを整備している施設は少ない 国内MICE施設の稼働率が高い状況が続いており、MICE施設側としてWi-Fiを整備せずとも施設予約が入り、施設間の競争原理が生まれていないことが要因 また、Wi-Fiを整備している施設もあるが、ネットワーク回線が細く、来場者すべてが利用できる容量を備えた仕様とはなっていない 	高
	AI技術等を活用したトイレの空き状況確認ツール	<p><参加者></p> <p>イベント会場のトイレ混雑を解消するツールがあるとよい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くのイベント会場のトイレは混雑し、顧客満足度の低下の一因となっている 多目的トイレを利用する障がい者が、多目的トイレの位置や空き状況がわからず困るという声が多くある 	低
	資料等閲覧アプリ	<p><参加者、主催者></p> <p>イベントで配布される資料のデジタル化があるとよい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではパンフレットなど印刷した資料が多用されているが、海外ではデジタル化されスマートフォンなどで確認できるようになっており、ペーパーレス化が進んでいる 	高
	当事者同士のコミュニケーションツール	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> イベント参加者と主催者等がインタラクティブに繋がるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> イベント当日に、イベント参加者と主催者(登壇者)等が繋がる仕掛けを行うことで、イベント参加者の満足度が向上する 学会において、講師だけでなく参加者も意見を出せるようにタブレット端末を配布するなどの事例が近年みられるようになってきている 	高

開催時(開催中)におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (5/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
開催時 開催中	オンライン食事関連サービス	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者を十分収容できるレストランやカフェ等の飲食サービスの充実があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 来場者数に比べ、レストランやカフェの数が不十分な場合、食のニーズを満たせず、イベント自体の満足度低下につながる 食事をMICE施設まで宅配するサービスや、レストラン側に<u>予め弁当の需要予測を知らせるサービス</u>があるとよい 	低
	バリアフリーサービス	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいがある方が共に楽しめる支援サービスがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的貢献活動の一環として実施したい 収益性を考慮する場合、費用の関係で断念している企業が多い 	低
	通信セキュリティサービス	<p><参加者、主催者、MICE施設></p> <ul style="list-style-type: none"> 通信環境セキュリティ対策があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち込みのソリューションサービスや機器が安全面からMICE施設や主催者が提供するネットワークへ接続できないことがある 	高
	高解像度映像中継ネットワークサービス	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 高解像度映像をタイムラグなく受配信できる通信環境があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの内容によってはリアルタイム中継するなどのニーズがあり、解像度や通信スピードなどのスペックが求められる 	低
	名刺交換ツール	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> 個人の詳細プロフィールも記載された名刺交換ツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> MICEイベントは多数の方々との面会するので、通常の企業同士の会議に比べ名刺交換後に顔と名前を一致させることが難しい 	低
	ウェアラブル端末等による環境最適化ツール	<p><参加者、MICE施設></p> <ul style="list-style-type: none"> 空調を一括管理でき、広い会場でも自動的に室温を最適化できる空調管理ツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 会場に短時間で大勢の参加者が来場する場合、<u>急激に会場温度が上昇することが多く、温度調整に時間を要する</u> 	低
	写真共有アプリ	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> イベント中の資料や懇親会の写真等が参加者に共有できるサイトやアプリがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 会議中や懇親会の写真を会議後に直接配布する場合、<u>写真探しに時間を要する</u> 	低
	デジタルサイネージ	<p><参加者、主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 広告や誘導、装飾用としても演出ができるデジタルサイネージがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> 海外では、壁面の看板などがデジタルサイネージとなっている例や、演台の前段部分がデジタルサイネージになっている例などがあるが、日本ではほとんどそのようなテクノロジーは使われていない 	高

開催時(開催後)におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (6/7)

		ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
開催時 開催後		アンケート集計ツール	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的なアンケート実施と効率的な自動集計・分析ができるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多数の参加者へのアンケート調査は、アナログ集計では高い負荷が掛かる ■ アンケート未回答や、アンケートが単調で答え甲斐がなく、途中で止めるケースが多く、次回以降の開催に向けた改善材料を入手できない ■ アンケート回答が電子化されている場合でも、いかに今後のイベントに有効活用できるデータを収集することが必要である ■ イベントを「点」で考えている主催者が多いが、過去の傾向等をもとにしたデータ分析を行い、「線」で考えることで分析効果を最大化する必要がある 	高
		駐車場管理ツール	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 駐車場の空き状況の確認や予約・決済、混雑の分散ができるシステムがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駐車場が混雑し、参加者の利便性や満足度が低下している 	低
		マーケティング用データ分析ツール	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ MICEイベント開催後のデータ分析などのマーケティングツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本では、MICEで収集したデータをマーケティングに活用するという習慣が確立されておらず、MICEイベント開催後のデータ分析などのマーケティングツールが発達していない ■ 日本では、来場者数や名刺交換の数が重視される傾向にあるものの、イベントでの商談成立等の成果の方が重要であり、根本的にイベントの成果に関する見方を変える必要がある ■ イベントを「点」で考えている主催者が多いが、過去の傾向等をもとにしたデータ分析を行い、「線」で考えることで分析効果を最大化する必要がある 	高
		来場者数管理システム	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 来場者数を正確に集計・管理できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 来場者数の正確な集計をアナログで実施している 	低
		セミナー配信システム	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ セミナーに参加できなかった人向けにセミナーの内容を動画配信するツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外のイベントでは、セミナー開催中及び開催後に、セミナー内容を動画で配信することにより、参加できなかった人や動画を見た人が興味を持ってもらうような取り組みを行っている 	高
		観光回遊性向上ツール	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アフターコンベンションの回遊性を促すようなテクノロジーがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設の有名な周辺観光地は混雑することが多いため、空き情報とナビゲーションを組み合わせたサービスがあるとよい ■ 例えば、混雑していない観光地のクーポンを発行する等で来場者数を増やし、混雑している施設と混雑していない施設の平準化を図ることで、観光地全体の魅力を高めることができる 	低

誘致時～開催時及び開催時におけるMICE関係者のニーズは以下のとおりであり、他産業において活用実績のある類似サービスのMICE産業への応用や新規サービスの開発が望まれる

ヒアリングに基づく国内MICE関係者ニーズ (7/7)

	ICTサービス	ニーズ	ニーズに至る背景・課題認識	海外導入状況
誘致時～開催時	e-learning等を活用したMICEナレッジマネジメントツール	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 業界ナレッジの蓄積と効果的な伝承を行うことで、業界への人材の定着率を高めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ RPAを積極的に導入することで、労働時間の短縮を図り、ヒトではできない作業に専念する環境を整備し、MICE従事者の生産性をあげると共に、業界への定着率を向上させる必要がある ■ 例えば、国際会議等のディレクターを務めるためには、最低10年程度の業界経験が必要と言われているが、業界関連知識を結集したe-learning等を整備して知識の底上げを図り、<u>短期間で国際会議にある程度対応可能な人材を育て上げる等の取り組みを行うことで、若年層にとっての魅力向上や業界の新陳代謝向上にも寄与すると考えられる</u> 	低
開催前～開催中 開催時 開催前～開催後	エコロジカルなテクノロジーツール	<p><主催者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 環境保護に資するエコロジカルなツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナビリティを重視したイベントが近年増加しており、演出としても施工物や紙媒体ではなく、デジタル化の方がエコなイメージのため世間から好まれる傾向がある 	高
	ワンストップサービス提供イベントアプリ	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スケジュール管理、名刺交換、出展者情報の取得等の必要な機能を一括で提供できるイベントアプリ(アフターコンベンションの情報提供も含む)があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、イベント開催前から開催後までワンストップで管理できるイベントアプリは普及している ■ 日本でもイベントアプリは存在するが、PCO、主催者、MICE施設等、様々な主体が製作しており<u>玉石混交の状況</u>である ■ イベントアプリは、主催者がアプリの運用を行うことが多いが、主催者側は費用対効果が期待できないため活用できていない ■ また、機能が充実しておらず、参加者も年に数回しかないイベントのためにアプリをインストールする価値を見い出せていない ■ 今後は、様々な機能が搭載されたオールインワンかつユーザビリティの高いサービスを構築し、諸外国に負けない付加価値の高いサービスを提供する必要がある 	高
	マッチメイキングツール	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ イベント当日にマッチメイキングを円滑にできるよう、事前準備として参加者の情報等を検索できるツールがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者はマッチメイキングをする際、インターネット検索で事前準備をすることが多いが限界がある 	高
	外国人向け交通(案内)サービス	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設までの交通アクセスについて、外国人訪問者がストレスなく迎り着けるサービスがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国人が日本の空港に降り立って電車等でMICE施設に訪問する際に、<u>乗車方法や乗り換え方法が分からず、多くのストレスを感じている</u> ■ 近距離移動であっても、ライドシェア(Uber等)などの先進的な交通手段がない 	高
	地域連携アプリ	<p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設のみならず、周辺エリアのアクティビティをセットで提供できるサービスがあるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MICEイベントを活用し、地域の活性化を図る動きが強まっている ■ 海外ではまちぐるみのMICEイベント開催が多くあるが、日本では少ない ■ MICE来場者の多くが、MICEイベントそのものだけではなく、日本の文化や歴史等を体験するアフターコンベンションを楽しみに来日している 	高

前述の国内MICE関係者ヒアリング結果をもとに、「Reach(海外で活用されることが多いサービス)」領域に関するMICE関連ICTサービスを各当事者ごとに以下の通り整理

各当事者のニーズに基づくICTサービスの整理 (Reach 領域)

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

主催者	MICE施設	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ■ VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール(誘致時) ■ 会場レイアウト確認ツール(開催前) ■ 通訳システム(開催中) ■ 位置情報確認ツール(開催中) ■ 無料高速Wi-Fi(開催中) ■ 資料等閲覧アプリ(開催中) ■ 当事者同士のコミュニケーションツール(開催中) ■ アンケート集計ツール(開催後) ■ マーケティング用データ分析ツール(開催後) ■ エコロジカルなテクノロジーツール(開催前～開催中) ■ SNS等を活用したマーケティングツール(誘致時) ■ 国内外のイベント検索ツール(開催前) ■ 入場バッチ発行プリンター(開催前) ■ 通信セキュリティサービス(開催中) ■ デジタルサイネージ(開催中) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール(誘致時) ■ デジタルサイネージ(開催前) ■ 国内外のイベント検索ツール(開催前) ■ 通信セキュリティサービス(開催中) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタルサイネージ(開催前) ■ 通訳システム(開催中) ■ 位置情報確認ツール(開催中) ■ 無料高速Wi-Fi(開催中) ■ 資料等閲覧アプリ(開催中) ■ 当事者同士のコミュニケーションツール(開催中) ■ ワンストップサービス提供イベントアプリ(開催前～開催後) ■ 事前情報収集ツール(開催前～開催後) ■ 外国人向け交通(案内)サービス(開催前～開催後) ■ 通信セキュリティサービス(開催中) ■ デジタルサイネージ(開催中) ■ セミナー配信システム(開催後) ■ 地域連携アプリ(開催前～開催後)

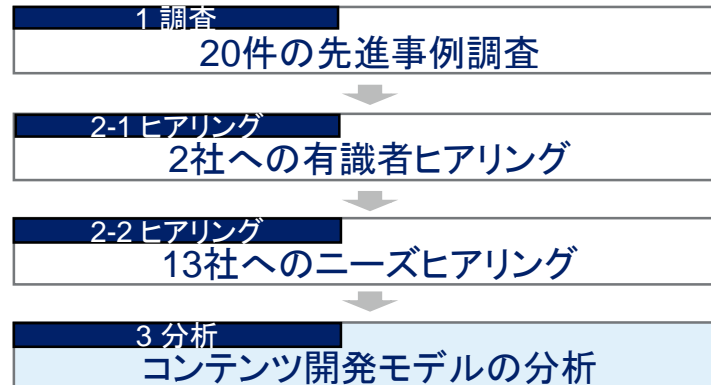
前述の国内MICE関係者ヒアリング結果をもとに、「Beyond(海外での活用実績がない又は少ないサービス)」領域に関するMICE関連ICTサービスを各当事者ごとに以下の通り整理

各当事者のニーズに基づくICTサービスの整理 (Beyond 領域)

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

主催者	MICE施設	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設予約システム(誘致時) ■ マッチメイキングツール(誘致時) ■ 出席者管理システム(開催前) ■ ビザ申請管理システム(開催前) ■ 出展者検索システム(開催前) ■ 高度な設営支援サービス(開催前) ■ 使いやすいデータベース(誘致活動時) ■ 演出イメージ情報サイト(開催前) ■ 翻訳システム(開催前) ■ AI契約書チェックシステム(開催前) ■ 高度リアルタイム資料共有システム(開催前) ■ レンタル機器プラットフォーム(開催前) ■ バリアフリーサービス(開催中) ■ 高解像度映像中継ネットワークサービス(開催中) ■ 写真共有アプリ(開催中) ■ 来場者数管理システム(開催後) ■ e-learning等を活用したMICEナレッジマネジメントツール(誘致時～開催時) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MICE施設予約管理システム(開催前) ■ MICE施設予約システム(誘致活動時) ■ AI契約書チェックシステム(開催前) ■ 高度リアルタイム資料共有システム(開催前) ■ ウェアラブル端末等による環境最適化ツール(開催中) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 手荷物保管サービス(開催前) ■ AI技術等を活用したトイレの空き状況確認ツール(開催中) ■ 駐車場管理ツール(開催後) ■ オンライン食事関連サービス(開催中) ■ 名刺交換ツール(開催中) ■ ウェアラブル端末等による環境最適化ツール(開催中) ■ 写真共有アプリ(開催中) ■ 観光回遊性向上ツール(開催後)

4. モデル分析

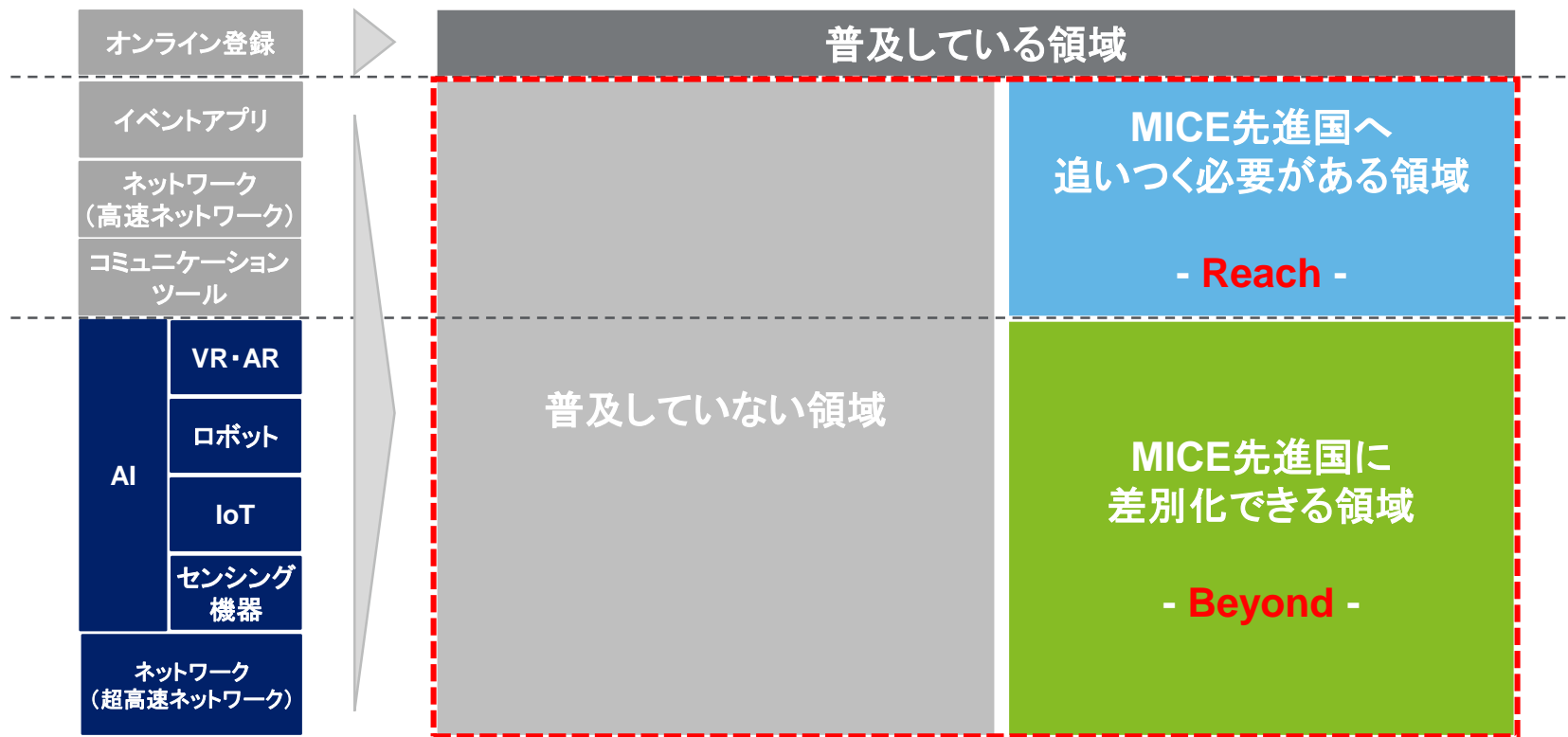


4.1 モデル分析まとめ

日本のMICE産業におけるテクノロジーの普及状況と課題

日本のMICE産業におけるテクノロジーの普及状況

凡例: 今後整備が必要な領域



以降、MICE先進国へ追いつく必要がある領域を Reach、MICE先進国に差別化できる領域を Beyond と表現する

- 日本では、オンライン登録は普及しているが、その他の多くのテクノロジーが普及していない状況
- 今後、国際会議・イベントの誘致競争に勝ち抜くためには、MICE先進国に追いつき、更にトレンドを見据えた差別化できるテクノロジーを導入する必要がある

M(Meeting)におけるモデル分析結果は以下の通り

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

Mのカスタマージャーニーイメージ

凡例

Reach ...海外で活用されることが多いサービス(日本の弱み)

■ ...各プレイヤーの主なニーズ

Beyond ...海外での活用実績がない又は少ないサービス(日本の強みとなり得る)

⇒ ...解決するためのICTサービス

いつ どこで	誘致活動		開催前				開催時 開催中		開催後		
	開催決定	開催地(施設) 決定	日本入国	ホテル	MICE 施設入場	MICE施設 退場	帰国				
何を	来年グローバルミーティング開催地を決定		MICE開催(参加)のための準備				イベント実施		アフターコンベンション 事後分析		
どのように											
ニーズ	主催者	<ul style="list-style-type: none"> 開催地選定のため施設や周辺観光地の下見をリモートで行いたい ⇒VR、WebでのMICE施設及び周辺観光地確認ツール Reach 会場の空き状況、広さ、収容人数などを把握し、予約を行いたい ⇒MICE施設予約システム Beyond 		<ul style="list-style-type: none"> エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 出席者の出欠管理、移動・宿泊管理等を一括して行いたい ⇒出席者管理システム Beyond 参加者のビザの要不要・必要書類等を一元管理したい ⇒ビザ申請管理システム Beyond 施設のレイアウト等の確認をリモートで行いたい ⇒会場レイアウト確認ツール Reach 				<ul style="list-style-type: none"> 複数の関係者と英語でコミュニケーションを取りたい ⇒通訳システム Reach 登壇者等の所在を把握したい ⇒位置情報確認ツール Reach Wi-Fi環境が整備されているといい ⇒無料高速Wi-Fi Reach パンフレット等を電子でやり取りしたい ⇒資料等閲覧アプリ Reach 当事者間でのインタラクティブな関わりを増やしたい ⇒当事者同士のコミュニケーションツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> MICEで収集したデータをマーケティングに活用したい ⇒マーケティング用データ分析ツール Reach 効果的かつ効率的にアンケートを収集したい ⇒アンケート集計ツール Reach 	
	参加者			<ul style="list-style-type: none"> 手荷物を預ける場所がない ⇒手荷物保管サービス Beyond イベントのスケジュール管理やセミナー会場の場所把握などをアプリで確認したい ⇒ワンストップサービス提供イベントアプリ Reach イベント当日のマッチメイキング等を効果的かつ効率的に行いたい ⇒マッチメイキングツール Reach 空港からの移動や施設間の移動をスムーズに行いたい ⇒外国人向け交通(案内)サービス Reach 				<ul style="list-style-type: none"> トイレが混雑して使えない ⇒AI技術等を活用したトイレの空き状況確認ツール Beyond 			
	MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> 施設視察対応時間を削減したい ⇒VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> 会場案内(把握)を効率化したい ⇒デジタルサイネージ Reach 最適な施設運用アドバイスが欲しい ⇒MICE施設予約管理システム Beyond 							

I(Incentive)におけるモデル分析結果は以下の通り

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

Iのカスタマージャーニーイメージ

凡例

Reach ...海外で活用されることが多いサービス(日本の弱み)

Beyond ...海外での活用実績がない又は少ないサービス(日本の強みとなり得る)

■ ...各プレーヤーの主なニーズ

⇒ ...解決するためのICTサービス

いつ どこで	誘致活動		開催前				開催時		開催後	
	開催決定	開催地(施設)決定	日本入国	ホテル	MICE施設入場	MICE施設退場	帰国			
何を	来年のインセンティブツアー開催地を決定		MICE開催(参加)のための準備				イベント実施		現地視察、アフターコンベンション事後分析	
どのように										
ニーズ	主催者	<ul style="list-style-type: none"> 開催地選定のため施設や周辺観光地の下見をリモートで行いたい ⇒VR、WebでのMICE施設及び周辺観光地確認ツール Reach 会場の空き状況、広さ、収容人数などを把握し、予約を行いたい ⇒MICE施設予約システム Beyond 	<ul style="list-style-type: none"> エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 出席者の出欠管理、移動・宿泊管理等を一括して行いたい ⇒出席者管理システム Beyond 参加者のビザの要不要・必要書類等を一元管理したい ⇒ビザ申請管理システム Beyond 施設のレイアウト等の確認をリモートで行いたい ⇒会場レイアウト確認ツール Reach 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の関係者と英語でコミュニケーションを取りたい ⇒通訳システム Reach 登壇者等の所在を把握したい ⇒位置情報確認ツール Reach Wi-Fi環境が整備されているといい ⇒無料高速Wi-Fi Reach パンフレット等を電子でやり取りしたい ⇒資料等閲覧アプリ Reach 当事者間でのインタラクティブな関わりを増やしたい ⇒当事者同士のコミュニケーションツール Reach 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的かつ効率的にアンケートを収集したい ⇒アンケート集計ツール Reach MICEで収集したデータをマーケティングに活用したい ⇒マーケティング用データ分析ツール Reach 					
	参加者		<ul style="list-style-type: none"> 手荷物を預ける場所がない ⇒手荷物保管サービス Beyond イベントのスケジュール管理やセミナー会場の場所把握などをアプリで確認したい ⇒ワンストップサービス提供イベントアプリ Reach イベント当日のマッチング等を効果的かつ効率的に行いたい ⇒マッチメイキングツール Reach 空港からの移動や施設間の移動をスムーズに行いたい ⇒外国人向け交通(案内)サービス Reach 	<ul style="list-style-type: none"> トイレが混雑して使えない ⇒AI技術等を活用したトイレの空き状況確認ツール Beyond 						
	MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> 施設視察対応時間を削減したい ⇒VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール Reach 	<ul style="list-style-type: none"> 会場案内(把握)を効率化したい ⇒デジタルサイネージ Reach 最適な施設運用アドバイスが欲しい ⇒MICE施設予約管理システム Beyond 							

C(Convention)におけるモデル分析結果は以下の通り

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

Cのカスタマージャーニーイメージ

凡例

Reach ...海外で活用されることが多いサービス(日本の弱み)

■...各プレーヤーの主なニーズ

Beyond ...海外での活用実績がない又は少ないサービス(日本の強みとなり得る)

⇒...解決するためのICTサービス

いつ どこで	誘致活動		開催前				開催時 開催中		開催後	
	開催決定	開催地(施設) 決定	日本入国	ホテル	MICE 施設入場	MICE施設 退場	帰国			
何を	3年後の国際学会の開催地を決定		MICE開催(参加)のための準備				イベント実施		アフターコンベンション 事後分析	
どのように										
ニーズ	主催者		<ul style="list-style-type: none"> ■ エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコジカルなテクノロジーツール Reach ■ 出席者の出欠管理、移動・宿泊管理等を一括で行いたい ⇒出席者管理システム Beyond ■ 参加者のビザの要不要・必要書類等を一元管理したい ⇒ビザ申請管理システム Beyond ■ 施設のレイアウト等の確認をリモートで行いたい ⇒会場レイアウト確認ツール Reach 				<ul style="list-style-type: none"> ■ 複数の関係者と英語でコミュニケーションを取りたい ⇒通訳システム Reach ■ 登壇者等の所在を把握したい ⇒位置情報確認ツール Reach ■ Wi-Fi環境が整備されているといい ⇒無料高速Wi-Fi Reach ■ パンフレット等を電子でやり取りしたい ⇒資料等閲覧アプリ Reach ■ 当事者間でのインタラクティブな関わりを増やしたい ⇒当事者同士のコミュニケーションツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 効果的かつ効率的にアンケートを収集したい ⇒アンケート集計ツール Reach ■ MICEで収集したデータをマーケティングに活用したい ⇒マーケティング用データ分析ツール Reach 	
	参加者		<ul style="list-style-type: none"> ■ 手荷物を預ける場所がない ⇒手荷物保管サービス Beyond ■ イベントのスケジュール管理やセミナー会場の場所把握などをアプリで確認したい⇒ワンストップサービス提供イベントアプリ Reach ■ イベント当日のマッチメイキング等を効果的かつ効率的に行いたい⇒マッチメイキングツール Reach ■ 空港からの移動や施設間の移動をスムーズに行いたい⇒外国人向け交通(案内)サービス Reach 							
	MICE施設		<ul style="list-style-type: none"> ■ 会場案内(把握)を効率化したい ⇒デジタルサイネージ Reach ■ 最適な施設運用アドバイスが欲しい ⇒MICE施設予約管理システム Beyond 							

E(Exhibition/Event)におけるモデル分析結果は以下の通り

※各ニーズの背景は、『3.3ヒアリング事項まとめ』(P.61～)参照

凡例

Reach ...海外で活用されることが多いサービス(日本の弱み)

■...各プレーヤーの主なニーズ

Beyond ...海外での活用実績がない又は少ないサービス(日本の強みとなり得る)

⇒...解決するためのICTサービス

Eのカスタマージャーニーイメージ

いつどこで	誘致活動		開催前				開催時		開催後		
	開催決定	開催地(施設)決定	日本入国	ホテル	MICE施設入場	MICE施設退場	帰国				
何を	家電見本市の開催決定		MICE開催(参加)のための準備				イベント実施		アフターコンベンション事後分析		
どのように	① 日本開催予定 → ② 場所の確保依頼 国内主催者 ← ③ 決定の連絡 → イベント会社 ④ 開催決定		主催者: 国内主催者 ↔ 連携 ↔ イベント会社 参加者: 入国 → ホテル移動 → MICE施設移動 → MICE施設				主催者: 国内主催者 ↔ 連携 ↔ イベント会社 ↔ MICE施設 出展者: 出展者 ↔ 交流 ↔ 参加者		主催者: 国内主催者 → アンケート → 参加者 参加者: アフターコンベンション (クルーズ, スカイツリー) → 帰国		
ニーズ	主催者	<ul style="list-style-type: none"> 開催地選定のため施設や周辺観光地の下見をリモートで行いたい ⇒VR、WebでのMICE施設及び周辺観光地確認ツール Reach 会場の空き状況、広さ、収容人数などを把握し、予約を行いたい ⇒MICE施設予約システム Beyond 研究開発者、イベント企画・運営者、マーケター等を繋ぐ環境を整備し、魅力あるコンテンツを生み出したい 政府や自治体(CB含む)と積極的に意見交換ができる場があるといい ⇒マッチメイキングツール Beyond 		<ul style="list-style-type: none"> エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 出席者の出欠管理、移動・宿泊管理等を一括して行いたい ⇒出席者管理システム Beyond 参加者のビザの要不要・必要書類等を一元管理したい ⇒ビザ申請管理システム Beyond 施設のレイアウト等の確認をリモートで行いたい ⇒会場レイアウト確認ツール Reach 出展者を募集する際に、ライトパーソンを特定しコンタクトをしたい ⇒出展者検索システム Beyond 施工時間を短縮してほしい ⇒高度な設置支援サービス Beyond 				<ul style="list-style-type: none"> 複数の関係者と英語でコミュニケーションを取りたい ⇒通訳システム Reach 登壇者等の所在を把握したい ⇒位置情報確認ツール Reach Wi-Fi環境が整備されているといい ⇒無料高速Wi-Fi Reach パンフレット等を電子でやり取りしたい ⇒資料等閲覧アプリ Reach コミュニケーションを活性化したい ⇒当事者同士のコミュニケーションツール Reach エコが流行りなので、取り入れたい ⇒エコロジカルなテクノロジーツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> 効果的かつ効率的にアンケートを収集したい ⇒アンケート集計ツール Reach MICEで収集したデータをマーケティングに活用したい ⇒マーケティング用データ分析ツール Reach 	
	参加者			<ul style="list-style-type: none"> 手荷物を預ける場所がない ⇒手荷物保管サービス Beyond 				<ul style="list-style-type: none"> トイレがいつも混んでいる ⇒AI等を活用したトイレの空き状況確認ツール Beyond 		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が混雑して帰宅に時間がかかる ⇒駐車場管理ツール Beyond 	
	MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> 施設視察対応時間を削減したい ⇒VR、WebによるMICE施設および周辺観光地確認ツール Reach 		<ul style="list-style-type: none"> イベントのスケジュール管理やセミナー会場の場所把握などをアプリで確認したい ⇒ワンストップサービス提供イベントアプリ Reach イベント当日のマッチメイキング等を効果的かつ効率的に行いたい ⇒マッチメイキングツール Reach 空港からの移動や施設間の移動をスムーズに行いたい ⇒外国人向け交通(案内)サービス Reach 							
			<ul style="list-style-type: none"> 会場案内(把握)を効率化したい ⇒デジタルサイネージ Reach 								
			<ul style="list-style-type: none"> 最適な施設運用アドバイスが欲しい ⇒MICE施設予約管理システム Beyond 								